「慶賀魚図」の推定制作年代

平　岡　隆　二

はじめに

特別企画展「シーボルトの水族館」（於長崎歴史文化博物館、2007年７月７日～９月２日）の準備時に直面したもっとも困難な問題が、『日本動物誌・魚類編』図版の原画として用いられた「慶賀魚図」の推定制作年代の同定であった[*1]。これらの魚図には画者・制作年に関する情報が明示されていないが、先行研究では、川原慶賀（1786-1860年以降）が出島オランダ商館員らの求めに応じて描いた前期・後期の魚図群の中でも、H.ビュルガー（Heinrich Bürger, 1806?-1858）の発注による後期のものと位置づけられている[*2]。これに従うとその制作年代は、ビュルガーがシーボルトから自然史調査官を引き継いだ1828年（文政11）以降、初めて魚類標本を発送した1830年（天保元）を経て、最後の第4回発送の1834年（天保５）までの間ということになるが、同展の図録執筆時には図ごとの細かな制作年の推定までには至らず、後の研究による更新を視野に入れて、一律に「文政・天保頃／ ca.1820's-1830's」という幅広い暫定年代を付すに留めた。

しかしその後、「慶賀魚図」各図の画紙余白にペンあるいは鉛筆で書き込まれたある番号を、ビュルガー作成の「分類リストSystematische lijst」（1830年、1831年、1832年、1834年発送の魚類標本送り状）所収魚種に付された番号、さらには該当種に関するビュルガーの「報告」に付された通し番号と照合した結果、この３者は確かに対応関係にあることが確認された[*3]。以下この番号を「整理番号」と呼ぶが、上記の史料群に残されたこれらの情報と他の書簡等から得られる情報に基づき、「慶賀魚図」各図の推定制作年代を1830年から1832年までの３年間の間で、およそ１年単位で絞り込むことが可能と考えられる。

周知のとおり慶賀は、魚図以外にも、ブロムホフ・フィッセル・シーボルトらの発注により膨大な数の風俗図等を描いたが、それらの正確な制作年は多くの場合不明であり、先行研究でも発注者の滞日時期や落款の相違などにより大まかな推定が成されているにすぎない[*4]。したがって「慶賀魚図」のようなまとまった作品群の制作年代が１年単位の精度で推定できることは、該当種の魚類学研究に有用な情報となるだけでなく、慶賀の画風の歴史的変遷や、使用した顔料[*5]、あるいは「慶賀工房」の存否を巡る問題等に、１つの有力な手掛りを提供することができるであろう。

以上の展望のもとに、本稿では上記史料群に基づく「慶賀魚図」の新たな推定制作年代を提示し、さらには、先の図録で詳しく取り上げることのできなかったビュルガーの魚類収集活動の諸特徴について考察したい。

１．使用した史料と推定の手順

1-1.「慶賀魚図」

計259図[*6]が現存する「慶賀魚図」の大半には、その画紙余白に整理番号が付されている。それらはペンによりインクで付したものと、鉛筆により付したものの２種に大別され、どちらか一方しか付されていない場合や、ペンと鉛筆書きの両方が付されている場合もある。また「慶賀魚図」各図の画紙は、描かれている魚の大きさにほぼ対応して寸法の大小があるが、ペン書きの整理番号を有する図の魚はいず

れも大型で、したがって画紙寸法も大きく、番号も余白左上のかなり隅の部分に付されている。他方、鉛筆書き番号のみ有する図の魚はおおむね小型種で、画紙寸法も小さく、番号のほとんどは魚体下付近の余白に付されている[*7]。

シーボルトは1828年９月24日、出島における予定任期を終える直前に、彼自身の調査成果をまとめた報告の中で、

> 私は動物学のこの分野［=魚類学］について他より時間を割いてきませんでしたが、それはこれらの生き物たちの絵を、自然に忠実に制作することが決定的に必要だと考えたからです。そのような絵の制作はこれまで成しえませんでしたが、それは私が自由に描かせることのできる唯一の有用な絵師が、植物やその他のものを描くので全く手一杯だからです。それゆえ私は、有益かつ楽しく、それほど骨の折れるものではないこの仕事を後任者に託すことにし、ここに日本のすべての魚種を、それが未知であれ既知であれ、また珍しいものであれ一般的なものであれ、生きた標本に基づいて絵に描かせることを提案します。日本人絵師・登与助［=慶賀］の精確さと、彼が用いる生き生きとした色彩は、自然と生命に匹敵するものとなるでしょう。しかし属や種の特性がはっきりと見てわかるように描かせることが重要です。私は分類学者でない人には、はじめにラマルクとキュヴィエ、そして同じく重要な魚類学者の著作を学ぶことを薦めます。分類学者は魚を描くにあたって何が重要であるかをよく知っているのです。絵に描いた標本や、それ以外の同種のよい標本をアラキ酒で保存する場合は、絵に付したのと同じ番号を標本にも付しておかなくてはいけません[*8]。

と述べているため、ビュルガーはシーボルトの指示に従い、慶賀に描かせた魚図にその元となった標本と対応する番号を付していたはずである。果たして「慶賀魚図」余白に付された整理番号のうち、ペン書き番号の方は、先行研究でもビュルガーの筆跡と同定されており、そのことは非常に特徴のある「１」の筆跡が、ビュルガー自筆の「報告」における筆跡と一致することからも裏付けられる（図１）[*9]。

図１．ペン書き整理番号とビュルガー「報告」の筆跡比較。
左上：「トラフグ」No.105。右上：「ブリ」No.191。
左下：「報告」（ヤツメウナギ、１頁）No.1。
右下：「報告」（ブリ、468頁）No.191

他方鉛筆書きの整理番号は、ペン書きのものとは筆跡が異なるため、別人によって付されたものと思しい。そうすると、これがどのような経緯で付されたものであるかが問題となるが、こちらは後代のある時期に、ビュルガー自筆のペン書き番号が付された余白そのものが切り取られた際、その番号まで失われぬよう、残った余白に鉛筆で付し直されたものと考えられる。「慶賀魚図」の余白が後代に切り取られていたことは、ビュルガーのペン書き番号が部分的に切断されている場合があることからも疑い得ない（図２）。現存する「慶賀魚図」の内、画紙寸法が最大のものは縦35cm横50cm程度ほどであるため、ビュルガーは当初この大きさの画紙（洋紙）を慶賀に渡し、そこに慶賀は大型種は縮小して、他は原寸大で描いていたはずである。しかしその結果、小型種には膨大な余白が残されることとなり、それらが後代に切り取られたのであろう[*10]。ペン書き番号を有する図の画紙寸法が、いずれも縦35cm横50cm程度あることは[*11]、そのような作業が行われたことを強く示唆している。

1-2. ビュルガーの「分類リスト」

ビュルガーは1830年、1831年、1832年、1834年の

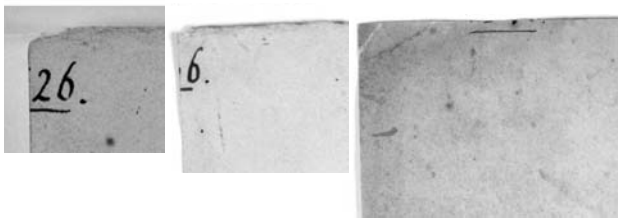


図２．「ヒラメ」(左)「ワラスボ」(中央)「シイラ」(右) におけるペン書き整理番号の切断。それぞれ元は「[No.1] 26」「[No.13] 6」「[No.95（下線のみ残存)]」であったと考えられる（第２節「照合表」４、52、71番参照)。

計４回にわたって魚類標本を発送したが、その各々に詳細な「分類リスト」を添付していた。そこにはビュルガーが暫定的に命名した種名が整然と列挙されているが、いくつかの種名には整理番号が付されており、これが「慶賀魚図」およびビュルガー「報告」の番号と対応するものである。以下各リストの詳細を掲げる。

1-2-1. 1830年版「分類リスト」

1830年の「分類リスト」は、かつてベルリンの日本学会に保存されていたシーボルト関連文書群[*12]の中に、ほぼ同じ内容のものが２種含まれている。そのマイクロフィルムコピーが現在財団法人東洋文庫に所蔵されているが、紙焼き複製版が長崎歴史文化博物館に収蔵されるため、本稿ではそちらを利用した。該当リストを含む冊子（請求番号2-450-155）は ***Autographs, Fauna japonica 22: Bürger, K.H., Systematische lyst van Japansche visschen***という表題が付され、冒頭の1-12頁が1832年のリスト（第1-2-3節参照)、以下順に、13-21頁が第1の1830年版リスト（全９頁。以下、リストＡ)、22-31頁が第2の1830年版リスト（全９頁。以下、リストＢ)[*13]、最後に32-33頁に「1826年江戸の市場における魚Fische auf dem Markte von Jedo 1826」というドイツ語表題を持つリスト（全２頁）が収録されている。

この２種の1830年版リストのうち、リストＡの表題・種名・整理番号は明らかにビュルガーの筆跡である。冒頭の第1頁のみ種名の右列にカタカナ和名が付されているが(図３)、残りの８頁は種名だけしか付されていない。種名の表記においてビュルガーは、たとえばシロシュモクザメの例を挙げると、

> ***Zygaena***, Cuv: ***Simokfuka,*** Jap:[*14]

すなわち、

> ラテン語属名, 属名の典拠［Cuvier］, 日本語名, 採取地［日本］

という記述法を用いている。これはシーボルトに従ったもので、後のすべてのリストでも同じ記述法が用いられている[*15]。

本リストは末尾の署名を欠くものの、その種名と配列順は、1830年の署名を有するリストＢと一致するため、同年のリストであることは間違いない。ただしビュルガーは、毎頁16行2列に列挙した種名の行間余白に、「Silirus, species」（３頁）「Gobius, species No.3」（５頁）「〃［=その上の属名***Caranx***と同じの意か］species 1.」（９頁）のような、別種の魚を後に追加したとも解釈し得る書き込みを付しているため、このリストは未完成の可能性がある[*16]。

他方リストＢの方は、カタカナ和名がまったく付されていない種名のみのリストで、明らかにビュルガーとは異なる別人の筆跡である。しかし末尾にはビュルガー自筆で、

> 出島、1830年12月20日／日本における自然史調査官、H.ビュルガー博士[*17]

と署名され、さらに行間の補筆も明らかに彼の筆跡であるため、ビュルガーが本リストの作成に関与していたことは疑い得ない。また本リストは、ビュルガー署名を有するものの、リストＡよりも補筆・取り消し線等の書き込みが著しく、おそらく作業リストの類であったと思われる。よって本稿の以下の分析では、より体裁が整っているリストＡを用いることとした。

さてこの1830年版リストの冒頭には、

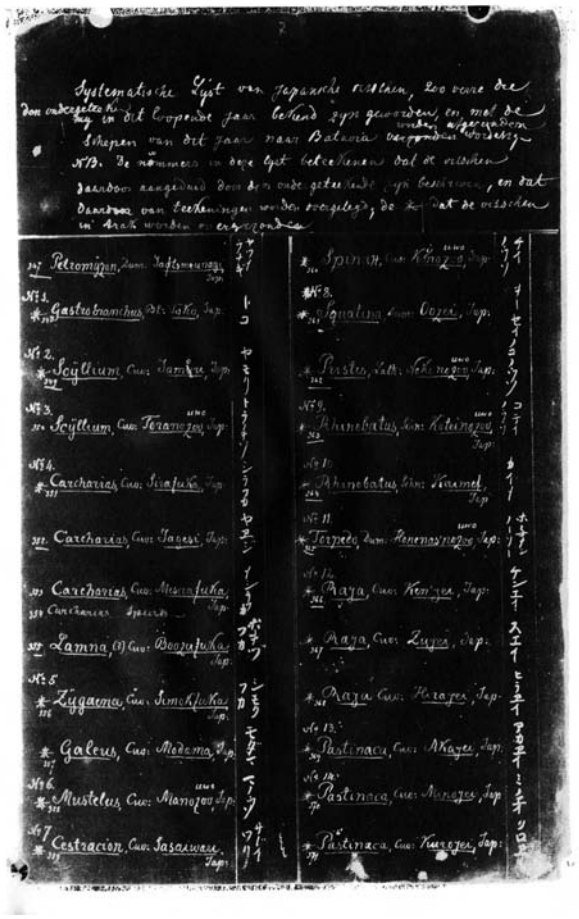


図３．1830年版「分類リスト」（リストＡ第１頁。東洋文庫所蔵・長崎歴史文化博物館収蔵複製本）

> 今のところ本年署名者［=ビュルガー］のよく知るところとなり、本年の船でバタビアに発送される日本の魚類の分類リスト。
> 注意：このリストにおける番号は、それを付した魚が署名者によって記述され［=ビュルガー「報告」のこと］、またその絵が提出されることを意味する。「＊」印はその魚がアラキ酒漬けで発送されることを意味する[*18]。

という表題が付され、確かにいくつかの種名にNo.1からNo.100までの番号が付されている[*19]。この表題の文言から、これらの番号が「慶賀魚図」およびビュルガー「報告」と参照し合うべく付された整理番号であることが分かる。したがって、この番号が付された「慶賀魚図」は、本リスト所収の標本群が発送された1830年12月20日までに完成していたと推定してよい。

さらにこれらの魚図の成立の上限を探るためには、1831年12月１日付けのビュルガー発シーボルト宛て書簡に書かれた内容が参考になる。

> 昨年既に手紙でお知らせしたように、貴台［=シーボルト］が日本を発たれた後、直ちに喜んで魚類に取りかかりましたが、お望み通りの成果が生れております。と申しますのも、現在では既に400種の魚類をトヨスケに生きているままにスケッチさせ、その内の200種に詳しい説明を付したからです。貴台も恐らくその中から多くの新知見を得ることでしょう。貴台の指示を忠実に守り、知られているものも、知られていないものも全てスケッチさせ、全てこの方法で、特に日本の湖沼や河川の魚類を発送すべく窓口に差し出しました。前便の中に私が既に100種ほど収集した淡水魚の内の多くを見出されることと思いますが、その多くはまだスケッチされておりません。私はここで全部合わせると700から800種の魚類を明らかにしましたが、その内の500から600種は詳しい説明ならびに図版とともに分類し、お送りする準備が整っております。ここから毎年100点あまりをお送りできると考えております。したがって、貴台は来年３回目を受け取ることとなります。納入されましたら、ご意見をお聞かせいただければうれしく存じます[*20]

ここでビュルガーが「貴台が日本を発たれた後、直ちに喜んで魚類に取りかかりました」と述べていることにより、これらの魚図の慶賀への発注は、シーボルトが日本を離れた1829年12月30日以降であったとしなければならない。

以上の考察に基づき、第２節の「照合表」では、No.1～100の整理番号を有する魚図の制作年代を「1830年」－1829年12月30日から1830年12月20日まで－と推定した[*21]。ただしライデン国立自然史博物館所蔵の1831年３月３日付けジャワ発H.C.マクロットの手紙には、

ビュルガーの報告で、彼は一群の魚図もこちらの政府に送ったと述べているが、それにもかかわらず我々はそれをまだ見たことがない[*22]

と見えるため、これらの魚図は1830年便で発送されていなかった可能性がある。

1-2-2. 1831年の「分類リスト」

第２回目の1831年発送用のリストも、上記のベルリン日本学会旧蔵文書群中に残されている。長崎歴史文化博物館所蔵の紙焼き複製本では、全16頁からなる *Autographs, Fauna japonica 17: Systematische lyst van Japansche visschen*という表題の冊子（請求番号2-450-150。図４）がそれにあたり、表題・署名の文言はそれぞれ、

［表題］
署名者によって本年の船でバタヴィアに発送される日本の魚類の分類リスト。
注意：このリストにおける番号は、それを付した魚が署名者によって記述され、またその200枚の絵が提出されることを意味する。

［署名］
出島、1831年12月1日／日本における自然史調査官、H.ビュルガー博士[*23]

となっている。この署名と本リストに付された整理番号がいずれもビュルガー自筆と認められるのに対して、表題および種名は明らかに別人の筆跡である。なおこの1831年版リストにも、1830年版と同じく、種名の行間余白に「Notidianus species」（１頁）「〃［=その上の属名*Hippoglossus*と同じの意か］Samekarei」（４頁）「Genus dubius」（16頁）のような書き込みが付されているため、未完成のリストであった可能性がある[*24]。ただし本リストではすべての魚種にカタカナによる和名が付されており、その多くには漢字名も付されている[*25]。

さて本リストの表題でビュルガーは、整理番号を

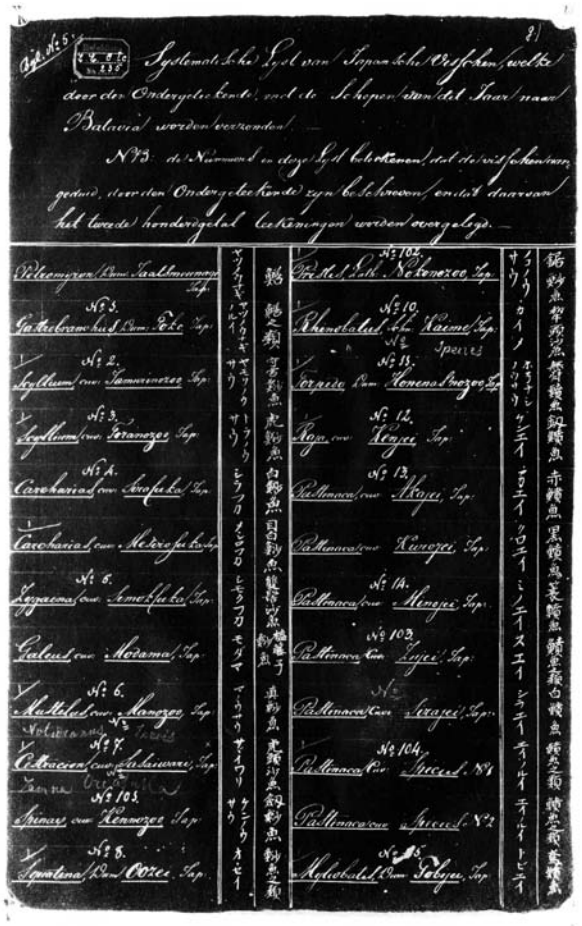


図４．1831年版「分類リスト」（第１頁。東洋文庫所蔵・長崎歴史文化博物館収蔵複製本）

付し提出する絵の数を「200枚」と明言しており、確かに本リストの種名のいくつかにはNo.1からNo.200までの整理番号が付されている[*26]。この表題を字義通り解釈すると、これらの番号が付された「慶賀魚図」は本便で発送されたということになるが、このうちNo.1～100の魚図は、前節で見たように、「1830年」には完成していたはずである。前節で引用したH.C.マクロットの証言も考え合わせると、ビュルガーはそれらの魚図を1830年便では発送せず、本便でまとめて発送していたのかもしれない。

その発送年がいつであったにせよ、本リストでNo.101～200の整理番号が付された魚図については、1830年の発送以降、この1831年便までに完成され、実際に発送されていたと考えてよいであろう。したがって第２節「照合表」では、本リストでNo.101～200の整理番号が付された魚図の制作年代を「1831年」－1830年12月20日から1831年12月１日まで－と推定した。

なお前節で引用した1831年12月１日付けシーボルト宛書簡においてビュルガーは、「現在では既に400種の魚類をトヨスケに生きているままにスケッチさせ、その内の200種に詳しい説明を付した」と述べていた。本リストには、整理番号が付されるべき位置にただ「No.」とだけ付し、それに続く数字が付されていない魚種も計55あるが[*27]、仮にそれらの魚図がこの時点で制作されていたとしても、その総数は200＋55＝255で、400という数字にはまだかなりの開きがある。下で述べるように、後の1832・1834版リストからも、ビュルガーがこの時点で400枚の魚図を慶賀に描かせていたという事実を読み取ることができないため、この数字には誇張があったのかもしれない[*28]。

また整理番号No.1～100までの魚図が1830年便で発送されていた場合、本リスト表題の「200」という提出数は、整理番号No.101～200までの魚図に、上記の「No.」のみの魚図を加えたものであった可能性も考えられる。しかし、たとえそうであったとしても、その総数は100＋55＝155で200には届かない。現資料では、この両年における「慶賀魚図」の発送数を疑問の余地なく決定することは難しく、この問題の解決は新資料の出現を待たねばならないだろう。

1-2-3. 1832年の「分類リスト」

第３回目の1832年発送用のリストは、上記のベルリン日本学会旧蔵文書群所収のものと、ライデン国立自然史博物館所蔵のものの２種を確認している[*29]。両者を比較した結果、前者は日本語文（カタカナ和名・漢字名）以外は明らかにビュルガーの筆跡で、後者は巻末のビュルガー自筆署名以外は別人の筆跡である。両者とも種名の前後行間への書込み等はなく、本年に発送された標本は計346種であったと確定できる。ただし前者は９頁以降のカタカナ和名・漢字名をまったく欠くのに対して、後者には付されている場合がある。後者はライデン国立自然史博物館に現存することからも、標本と共に発送された完全なリストと見てよく、よって本稿の分析では、1832年版リストとして後者を用いることとした。

その冒頭表題と、巻末署名は以下の通りである。

［表題］
署名者によって今年の船でバタヴィアに発送される日本の魚類の分類リスト。
注意：このリストにおける番号は、それを付した魚が署名者によって記述され、またその図の第３便が提出されることを意味する。

［署名］
出島、1832年12月１日／［以下ビュルガー自筆］
当地での自然史調査官、H.ビュルガー博士[*30]

本リストで注目すべきは、表題に「図の第3便が提出される」と明言されているものの、整理番号は1831年版と同じく200番までしか付されておらず[*31]、この１年間で数が増えていないことである。本リストにも、1831年版リストと同様、整理番号が付されるべき位置にただ「No.」とだけ付し、それに続く数字が付されていない種が計49ある[*32]。その中には1831年版のものと共通する種も含まれるが[*33]、ここではそれらの魚図（あるいは共通種を差し引いた数の魚図）が、この1832年便で提出された「図の第３便」であった可能性があるということだけ指摘しておこう。本リストには魚図の発送数が明記されておらず、その数を疑問の余地なく決定することは難しいからである。

いずれにせよ、次節で取り上げる1834年版「分類リスト」表題の文言から、ビュルガーは最終の第4便では魚図を発送していなかったと判断できるので、たとえ整理番号が付されていない魚図であっても、この1832年の発送までには制作が完了し、実際に発送されていたはずである。したがって第２節「照合表」では、整理番号のない魚図の制作年代を一律「1830～1832年」－1829年12月30日から1832年12月１日まで－と推定した[*34]。

1-2-4. 1834年の「分類リスト」

最後の第4回発送となった1834年のリストは、ライデン国立自然史博物館に残されている[*35]。表題・種

名・署名の筆跡はビュルガーによるもので、また全ての魚種にカタカナ和名が、またそのいくつかに漢字名が付されている（図５）。行間の書き込みはなく、計276の発送種名が列挙されている。冒頭の表題と末尾の署名は以下の通り。

［表題］
署名者によって今年バタヴィアに発送される日本の魚類の分類リスト。
注意：このリストにおける「†」印は、それを付した魚が署名者によって記述され、またその絵がすでに以前に送付されたものであることを意味する。

［署名］
出島、1834年10月25日／日本における自然史調査官、H.ビュルガー博士[*36]

この表題の文言から、ビュルガーは1832年の発送の時点ですべての「慶賀魚図」を送付し終えており、それ以降の制作・発送はなかったと判断できるため、整理番号が付されていない魚図の制作年を一律「1830〜1832年」と推定したことはすでに述べた。

また本リストには、すでに図が送付済みであることを示す「†」印が計213種に付されているが、先の３種のリストで整理番号が付されていた魚種名を本リストに探し出して、第２節「照合表」に含めたところ、いずれも「†」印が付されていることが確認

図５．1834年版「分類リスト」（第１頁冒頭部。ライデン国立自然史博物館蔵）

された。

1-3. ビュルガーの「報告」

最後に取り上げる史料が、日本産魚類に関するビュルガー自筆の「報告」である[*37]。この498頁からなる大部のオランダ語写本においてビュルガーは、計200種を取り扱っている。すでに繰り返し述べたように、それらの魚種に付された通し番号は、「慶賀魚図」「分類リスト」の整理番号と対応するものであるため、第２節「照合表」では、本「報告」における該当種の整理番号・種名も併せて収録した。

この「報告」は、第1-2-1節で引用した1831年12月１日付けビュルガー発シーボルト宛の書簡に「…その内の200種に詳しい説明を付した」と見えることにより、1831年の発送の時点ですでに完成していたであろう。1830・1831年版リストにおける表題の文言と整理番号数も、その成立が「1830〜1831年」であったことを裏付けるものである。

「報告」の大部分は分類学的な記述が占めるが[*38]、最後に「備考Aanmerkingen」として、これらの魚が当時長崎のどこで、どのようにして捕獲され、どの季節に魚市場に出回っていたか、あるいは日本人の食し方や好みなどを記しており、近世長崎の漁業環境と魚文化を窺う上できわめて興味深い内容を持っている。先の図録の解説でもこれらの情報を大いに利用したが[*39]、その中には同時代の日本側の文献によって裏付けられる記述も見られる。たとえばシロウオ（第２節「照合表」19番）についてビュルガーは、

備考：当地で小さな白い魚と呼ばれているこの魚は、３月や４月のような春の月にだけ、長崎近郊の山から流れ出た小川や細流で驚くほど大量に捕獲される。日本人が大いに好む食料で、通常みずから捕獲にでかけ、川岸に張ったテントで調理して食べ、たいていは家族全員が休日旅行のように参加する。この魚を長く保存することはできず、すぐに水に溶けてねばねばしたものになってしまう[*40]

と記しているが、長崎聖堂助教の饒田喩義が文政頃に編纂した『長崎名勝図絵』には、これとほぼ一致するシロウオ漁の様子が詳しく記されている（図６）。

梁白魚：

やなの川は浦上山里村にあり。流れ清くしてさのみ深からず。川中処々に網を置きて白魚をとるなり。網は蚊帳の布のごときを用ひて四手に竹を組わたし、緒縄を着て橛にかけ、魚の聚まるべき所におろし置て時々これをあげて杓をもつてすくひ採るなり。網を置べき側には藁小屋を作りてわざをなす処とし、梁を設けて魚を聚む…［中略］…此川の流れふるくは何とかいひたりけむ。白魚とるわざの名だかくて梁とは呼びならはせるなめり。今は此あたりの里の名のごとくなりぬ。此魚正月の初より出て二月彼岸のころを盛んなりとす。されば年毎の其ころは遊人多くつらなり来りて河辺ちかき家居は更なり。水なき所は川中といはず氈をしき、むしろをつらね、行厨を携へつゝところせきまで群集をなす事日毎にしかなり[*41]

この両者の記述は、時代だけでなく内容もよく一致するため、同じシロウオ漁の様子について述べたものと見て間違いなかろう。『長崎名勝図絵』所収の絵には、川岸に赤子を背負った女性の姿も描かれているが、このような風景がビュルガーの目には日本人家族の休日旅行uitspantogtjeのように映ったようである。なお香月薫平が明治26年（1893）に出版した『長崎地名考』物産部の「白魚」の項にも、

白魚は浦上山里村と淵村の境、梁川にてとる。此川は流れ清くして深からす。川中所々に小石を畳み上けたる所に納屋を建て業をなすもの居れり。網は蚊帳の如く四手に竹を組み、緒縄をつけ、魚の集る所に網を卸しおき、時をはかり引揚け、魚を杓にてすくひとる。此魚は二月彼岸の頃までを盛とす。夫より後は魚も多からす、又味ひも薄し。年毎遊人来り。河原にて宴し魚を調味す[*42]

と見えるため、19世紀の浦上近辺（現在の梁川町付近か）でこのような光景を目にすることは決して珍しくなかったはずである。現在は都市開発が進み、長

図６．『長崎名勝図絵』所収「浦上村・白魚梁」（文政頃）

崎市中心部でこのような風景を見ることはできないが、長崎県北松浦郡佐々町では上の漁法とほとんど同じシロウオ漁が現在も行われていることを指摘しておく[*43]。

２．照合表

凡例

○本表は、特別企画展「シーボルトの水族館」において展示した「慶賀魚図」の推定制作年代を、本稿の考察に基づいて再同定するために作成したものである。同展図録に掲載した78種以外に、展示のみ行った８種を含めた、計86種を集録している。

○第２列「図版番号」には、各魚図の同展図録番号、『日本動物誌・魚類編』［略称FJ］の図版番号、Yamaguchi (1997a)における図版番号をそれぞれ掲げた。

○第３列「名称」には、各図に描かれた魚種の和名、現在有効な学名、また［　］内に『日本動物誌・魚類編』における学名をそれぞれ掲げた。種の特定は、同展図録およびYamaguchi（1997a）に従った。

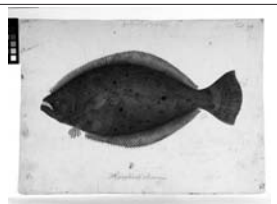
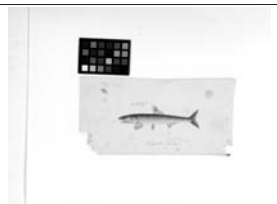
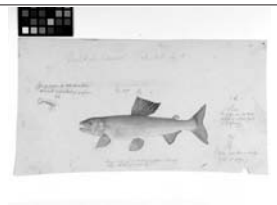
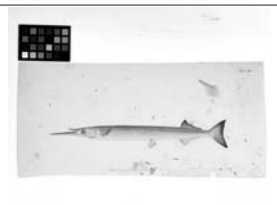
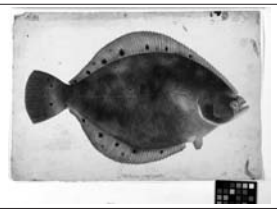
○第４列「慶賀魚図」には各魚図の全景を掲げた。カラーチャートの実寸は長辺82㎜×短辺58㎜である。

○第５～10の各列には、本稿第1節で掲げた諸史料から整理番号・種名等に関する記述を引用し、その出典頁数を（　）内に記した。引用に際しては原文に忠実に翻刻することを旨とし、明らかに誤りと分かる場合もとくに「ママ」「sic」等は付さなかった。ただし内容の区切りには「/」を挿入し、下線が付されている場合はイタリックで表記している。また［　］の字句は筆者による挿入である。

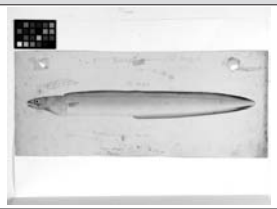
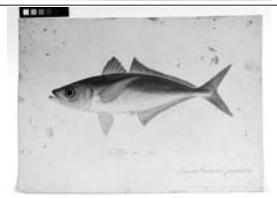
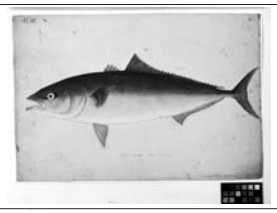
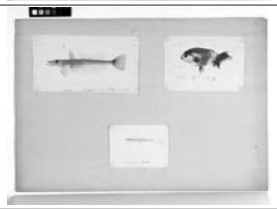
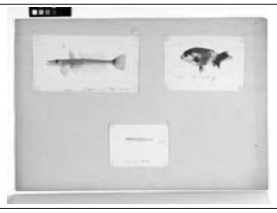
○第５列「余白書き込み」における引用では、末尾に［ペン］・［鉛筆］等と記し、どの記述がペン書き・鉛筆書きであるか判別できるようにした。

○第６列「1830年版リスト」には、整理番号とは別に全魚種に通し番号が付されているが、それらは省略した。

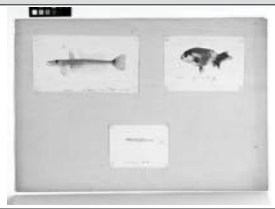
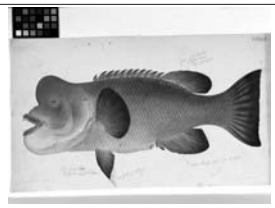
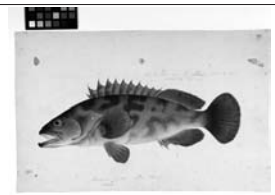
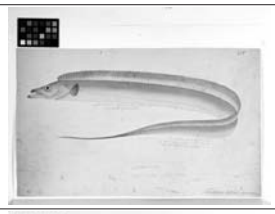
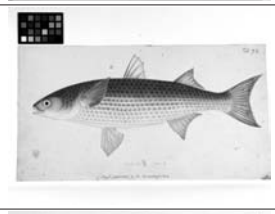
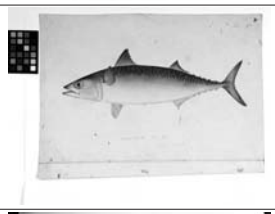
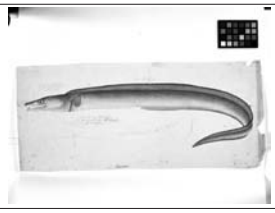
○第11列「推定制作年代」には、本稿の考察に基づいてそれぞれ導出した推定制作年代を掲げた。なお史料ごとに整理番号の食い違いが見られる例が若干あるが、その場合の推定の根拠等を第12列「備考」に記した。

No.	図版番号	名　　称	「慶賀魚図」	余白書き込み	1830年版リスト	1831年版リスト
1	図録42 FJ.35 山口70	マダイ *Pagrus major* (Temminck & Schlegel) [*Chrysophrys major*]		N.145［鉛筆］	Sparus, Cuv: Ohtai, Jap（p.6）	No.151/*Sparus*, Cuv: Ootei, Jap:/オタイ/雄鯛（p.8） ［No.145/*Crenilabrus* Cuv: *Hijetei*, Jap:/ヒゲダイ/髭鯛（p.7）］
2	図録43 FJ.12-1 山口28	ウミヒゴイ *Parupeneus chrysopleuron* (Temminck & Schlegel) [*Mullus chrysopleuron*]		Mullus, No.76, Bürger, Jap.［鉛筆］	No.76/Mullus, Linn: Akabensasi（p.7）	No.76/*Mullus*, Linn: *Oobensasi*, Jap:/オゝベニサシ/大紅指魚(p.11)
3	図録44 FJ.46-1 山口86	イシダイ *Oplegnathus fasciatus* (Temminck & Schlegel) [*Scaradon fasciatus*]		Lobotes? No.64［鉛筆］	No.64/Scarus, Cuv: Hiza, Jap:（p.5）	No.64/*Scarus*, Linn: *Hiza*, Jap:/ヒサ（p.7）
4	図録45 FJ.94 山口160	ヒラメ *Paralichthys olivaceus* (Temminck & Schlegel) [*Hippoglossus olivaceus*]		［No.1］26［ペン］ Hippoglossus, No.126［鉛筆］	-	No.126/*Hippoglossus*, Cuv: *Makarei*, Jap:/マカレイ/真王餘魚（p.4）
5	図録46 FJ.108-3 山口183	カタクチイワシ *Engraulis japonica* Temminck & Schlegel [*Engraulis japonicus*]		Engraulis japonicus, No.113［鉛筆］	-	No.114/*Engraulis*, Cuv: *Jetariiwasi*, Jap:/エタリイワシ（p.3） ［No.113/*Megalops*, Lacep: *Konosiro*, Jap:/コノシロ/鰳（p.3）］
6	図録47 FJ.なし 山口254	トビウオ *Cypselurus agoo agoo* (Temminck & Schlegel) [*Exocoetus agoo*]		Exocoetus, No.35, E.agoo［鉛筆］	No.35/Exocetus, Linn: Agô（p.3）	No.35/*Exocetus*, Linn: *Agoo*, Jap:/アゴ/飛魚(p.3)
7	図録48 FJ.105-1 山口175	アユ *Plecoglossus altivelis* (Temminck & Schlegel) [*Salmo (Plecoglossus) altivelis*]		-	-	-
8	図録49 FJ.110-2 山口188	サヨリ *Hyporhamphus sajori* (Temminck & Schlegel) [*Hemiramphus sajori*]		hemiramphus Sajori, n. jp. No.117［鉛筆］	-	No.116/*Hemi-Ramphus*, Cuv: *Sajori*, Jap:/コサヨリ/小鱵（p.3） ［No.117/*Gen:dub: Tsjoozen kamazu*, Jap:/チョウセンカマス/朝鮮鰯（p.3）］
9	図録50 FJ.90 山口156	ホシガレイ *Verasper variegatus* (Temminck & Schlegel) [*Platessa variegata*]		No.124［ペン］	-	No.124/*Platessa*, Cuv: *Hosikarei*, Jap:/ホシカレイ/星王餘魚（p.4）

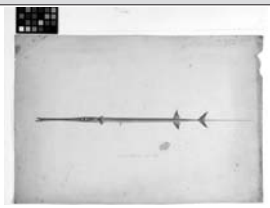
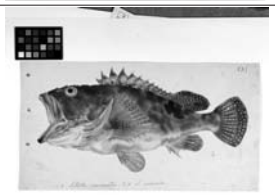
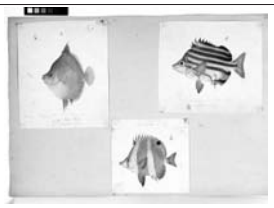
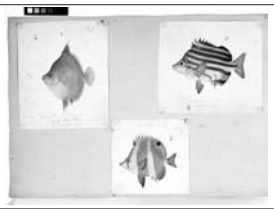
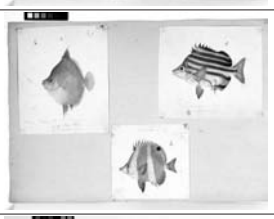
	1832年版リスト	1834年版リスト	ビュルガー「報告」	推定制作年代	備考
	No.151/*Sparus*, Cuv: *Ootei*, Jap:/雄鯛/オタイ（p.7） ［No.145/*Crenilabrus*, Cuv: *Hijetei*, Jap:/ヒエタイ（p.6）］	オータイ/雄鯛/†*Sparus*, Cuv: *Ootei*, Japon:（p.5）	No.145/*Sparus Ootei*, Jap:/オゝタイ/大鯛（p.324） ［No.151/*Sparus Itojori*, Jap:/イトヨリ/金線魚（p.339）］ ［No.146/*Crenilabrus Hijetei*,Jap:/ヒゲタイ/髭鯛(p.327)］	1831	余白書き込みと「報告」の「145」の一致より同定。
	No.76/*Mullus*, Linn: *Oobensasi*, Jap/大紅指魚/オゝベニサシ（p.9）	オーベニサシ/大紅指魚/†*Mullus* Linn: *Oobensasi*, Japon:（p.6）	No.76/*Mullus akabensasi*, Jap:/赤紅指魚/アカベニサシ（p.142）	1830	
	No.64/*Scarus*, Linn: *Hiza*, Jap/ヒサ（p.6）	ヒサ/†*Scarus*, Cuv: *Hiza*, Japon:（p.5）	No.64/*Scarus*［訂正あり］*Hiza*, Jap:/ヒサ（p.120）	1830	
	No.126/*Hippoglossus*, Cuv: *Makarei*, Jap:/真王餘魚/マカレイ（p.4）	マカレイ/真王餘魚/†*Hippoglossus*, Cuv: *Makarei*, Japon:（p.3）	-	1831	ペン書き整理番号は左下隅に付され、一部切断されている。
	No.114/*Engraulis*, Cuv: *Jetariiwase*, Jap:/海鰻之類/エタリイワシ(p.3) ［No.113/*Megalops*, Lacep: *Konosiro*, Jap:/鰯/コノシロ（p.3）］	エタリイワシ/海鰛之類/†*Engraulis*, Cuv: *Jetariiwasi*, Japon:（p.2）	No.113/*Engraulis Jetareiwasi*, Jap:/エタリイワシ/海鰛之類（p.237） ［No.114/*Megalops Konosiro*, Jap:/コノシロ/鰯(p.240)］	1831	余白書き込みと「報告」の「113」の一致から同定。
	No.35/*Exocetus*, Linn: *Agoo*, Jap:/飛魚/アゴ(p.3)	アゴ/飛魚/†*Exocetus*, Linn: *Agoo*, Japon:（p.3）	No.35/*Exocetus Agoo*, Jap:/飛魚/アゴ（p.74）	1830	
	-	-	-	1830-1832	
	No.116/*Hemi-Ramphus*, Cuv: *Sajori*, Jap:/鱵/サヨリ（p.3） ［No.117/*Gen:dub*: *TsjozenKamazu*, Jap:/朝鮮鯲/チヤウセンカマス（p.3）］	サヨリノルイ/鱵/†*Hemi-Ramphus*, Cuv: *Sajori*, Japon:（p.2）	No.117/*Hemi-Ramphus Sajori*, Jap:/サヨリ/小鱵（p.249）	1831	余白書き込みと「報告」の「117」の一致より同定。
	No.124/*Platessa*, Cuv: *Hosikarei*, Jap:/星王餘魚/ホシカレイ（p.4）	ホシカレイ/星王餘魚/†*Platessa*, Cuv: *Hosikarei*, Japon:-（p.3）	-	1831	魚図余白に「五十八」と鉛筆書込あり。

No.	図版番号	名　　称	「慶賀魚図」	余白書き込み	1830年版リスト	1831年版リスト
10	図録51 FJ.113-1 山口196	ゴテンアナゴ *Anago anago* (Temminck & Schlegel) [*Conger anago*]		No.131［鉛筆］	Muraena, Bl: Anago, Jap: (p.4)	No.131/*Muraena*, Lacep: *Anago*, Jap:/アナゴ/鱓魚 (p.5)
11	図録52 FJ.130-1 山口223	カワハギ *Stephanolepis cirrhifer* (Temminck & Schlegel) [*Monacanthus cirrhifer*]		-	No.27/ *Monacanthus*, Cuv: *Komuki*, Jap: (p.2)	No.27/*Monacanthus*, Cuv: *Koomuki*, Jap:/コウムキ (p.2)
12	図録53 FJ.59-1 山口103	マアジ *Trachurus japonicus* (Temminck & Schlegel) [*Caranx trachurus japonicus*]		Caranx (Saurel) No.186, Japon［鉛筆］	-	No.186/*Caranx*, Lacep: *Asi*, Jap:/アシ/鯵(p.14)
13	図録54 FJ.107-3 山口181	マイワシ *Sardinops melanosticus* (Temminck & Schlegel) [*Clupea melanosticta*]		Clupea melanosticta, [..], jap[o]n, sp., No.111［鉛筆］	-	No.111/*Clupea*, Cuv: *Maiwasi*, Jap;/マイワシ/真海鰮 (p.3)
14	図録55 FJ.62-2 山口109	ブリ *Seriola quinqueradiata* Temminck & Schlegel [*Seriola quinqueradiata*]		No.191［ペン］ Seriola, No.191, Japon, Ooiwo［鉛筆］	-	No.191/*Seriola*, Cuv: *Ooiwo*, Jap:/オゝウヲ/鰤 (p.14)
15	図録56 FJ.44-2 山口81	キンチャクダイ *Chaetodontoplus septentrionalis* (Temminck & Schlegel) [*Holacanthus septentrionalis*]		-	-	-
16	図録57 FJ.80 山口142	アンコウ *Lophiomus setigerus* (Vahl) [*Lophius setigerus*]		Lophius, No.83, Japan［鉛筆］	83/Lophius, Cuv: ankoo, Jap: (p.8)	No.83/*Lophius*, Cuv: *Anko*, Jap:/コンコウ/華臍魚 (p.13)
17	図録なし FJ.なし 山口256	(左上)アイトラギスの類 *Bembrops* sp.		-	-	-
18	図録59 FJ.なし 山口259	(右上)ランチュウの一種 *Carassius auratus auratus* (Linnaeus)		No.36, Cypr. auratus, var.［鉛筆］	No.36/Cijprinus, Cuv: Kingyoo, Jap: (p.3)	No.36/*Cijprinus*, Cuv: *Kingjoo*, Jap:/キンギョ/金魚 (p.4)

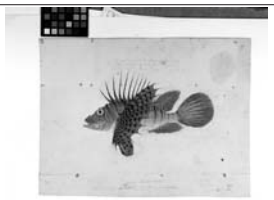
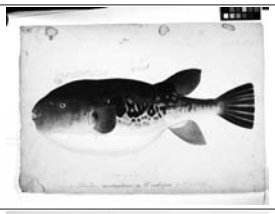
	1832年版リスト	1834年版リスト	ビュルガー「報告」	推定制作年代	備考
	No.131/*Muraena*, Lacep: *Anago*, Jap:/鰻魚/アナゴ（p.4）	アナゴ/鰻魚/†*Muraena*, Lacep: *Anago*, Japon:（p.3）	No.131/*Mijrus Anago*, Jap:/アナゴ/鰻魚（p.279）	1831	
	No.27/*Monacanthus*, Cuv: *Koomuki*, Jap:/コウムキ（p.2）	コウムキ/†*Monacanthus*, Cuv: *Koomuku*, Japon:（p.2）	No.27/*Monacanthus Koomuki*, Jap:/コームキ（p.58）	1830	
	No.186/*Caranx*, Lac: *Asi*, Jap:/鰺/アヂ（p.10）	アジ/鰺/†*Caranx*, Cuv: *Asi*, Japon（p.7）	No.186/*Caranx Asi*[Adsiと訂正あり], Jap:/アジ[アヂと訂正あり]/鰺（p.451）	1831	
	-	-	No.111/*Clupea Maiwasi*, Jap:/マイワシ/真海鰮（p.231）	1831	
	No.191/*Seriola*, Cuv: *Ooiwo*, Jap:/鰤/オヽイヲ（p.11）	オーイヲ/鰤/†*Seriola*, Cuv: *Ooiwo*, Japon:（p.8）	No.191/*Seriola Ooiwo*, Jap:/オヽイヲ/鰤（p.468）	1831	
	-	-	-	1830-1832	
	No.83/*Lophius*, Cuv: *Ankoo*, Jap:/華臍魚/アンコウ（p.10）	アンカウ/華臍魚/†*Lophius*, Cuv: *Ankoo*, Japon:（p.7）	No.83/*Lophius Ankoo*, Jap:/鮟鱇/アンコー（p.158）	1830	
	-	-	-	1830-1832	
	-	-	No.36/*Cyprinus Kingjoo*, Jap:/金魚/キンギョ（p.76）	1830	

No.	図版番号	名　　称	「慶賀魚図」	余白書き込み	1830年版リスト	1831年版リスト
19	図録なし FJ.なし 山口251	(中央下)シロウオ *Leucopsarion petersi* Hilgendorf [*Leucopsarion petersi*]		Liparis, [..], No.128	-	No.128/*Liparis*, Arted: *Siroiwo*, Jap:/シロウヲ/白魚 (p.5)
20	図録62 FJ.83 山口147	コブダイ *Semicossyphus reticulatus* (Valenciennes) [*Labrus reticulatus*]		-	-	-
21	図録63 FJ.83a 山口148	コブダイ *Semicossyphus reticulatus* (Valenciennes) [*Labrus reticulatus*]		No.56［ペン］	No.56/Labrus, Cuv: Nobuzu, Jap: (p.5)	No.56/*Labrus*, Cuv: *Nobuzu*, Jap:/ノブス (p.6)
22	図録64 FJ.84 山口149	コブダイ *Semicossyphus reticulatus* (Valenciennes) [*Labrus reticulatus*]		-	-	-
23	図録66 FJ.4-2 山口10	クエ *Epinephelus moara* (Temminck & Schlegel) [*Serranus mo-ara*]		Serranus moara, No.160, Japon, Bürger［鉛筆］	Serranus, Cuv: Moara (p.6)	No.160/*Serranus*, Cuv: *Moara*, Jap:/モアラ/藻鯤 (p.9)
24	図録67 FJ.54 山口96	タチウオ *Trichiurus lepturus* Linnaeus [*Trichiurus lepturus japonicus*]		タチウヲ　［鉛筆］	No.48/Trichiurus, Linn: Tatsuiwo, Jap (p.4)	No.48/*Trichiurus*, Linn: *Tatsuiwo*, Jap:/タツウヲ/鱵 (p.5)
25	図録68 FJ.72-1 山口125	ボラ *Mugil cephalus* Linnaeus [*Mugil japonicus*]		Mugil, No.77, Japan, B.［鉛筆］	N.77/Mugil, Linn: Bora (p.7)	No.77/*Mugil*, Linn: *Bora*, Jap:/ボラ/鯔 (p.11)
26	図録69 FJ.47-1 山口87	マサバ *Scomber japonicus* Houttuyn [*Scomber pneumatophorus major*]		Scomber, No.183, Japon, Bürger［鉛筆］	Scomber, Cuv: Saba, Jap: (p.8)	No.183/*Scomber*, Cuv: *Saba*, Jap:/サハ/鯖 (p.13)
27	図録71 FJ.114-2 山口198	ハモ *Muraenesox cinereus* Forsskål [*Conger hamo*]		Conger, No.43［鉛筆］	No.43/Conger, Cuv: Hamo, Jap: (p.4)	No.43/*Conger*, Cuv: *Hamo*, Jap:/ハモ/海鰻鱺 (p.5)

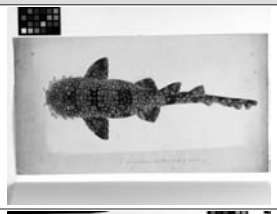
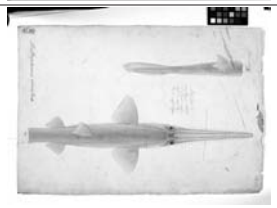
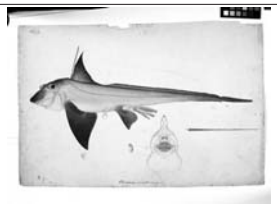
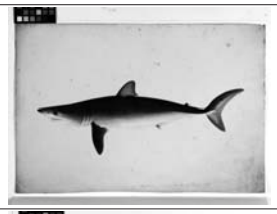
	1832年版リスト	1834年版リスト	ビュルガー「報告」	推定制作年代	備考
	-	-	No.128/*Liparis(?) Siroiwo*, Jap:/シロイヲ/白魚（p.270）	1831	
	-	-	-	1830-1832	
	No.56/*Labrus*, Cuv: *Nobuzu*, Jap:/ノブス（p.5）	ノブス/†*Labrus*, Cuv: *Nobuzu*, Japon:（p.4）	No.56/*Labrus Nobuzu*, Jap:/ノブス（p.112）	1830	
	-	-	-	1830-1832	
	No.160/*Serranus*, Cuv: *Moara*, Jap:/藻鯒/モアラ（p.7）	モアラ/藻鯒/*Serranus*, Cuv: *Moara*, Japon:（p.5）	No.160/*Serranus Moara*, Jap:/モアラ/藻鯒（p.365）	1831	
	-	-	No.48/*Trichiurus tatsuiwo*［tatsiuwoと補入］, Jap:/太刀魚/タチイヲ［ウヲと訂正］（p.96）	1830	魚図余白書き込みの「タチウオ」より同定。
	No.77/*Mugil*, Linn: *Bora*, Jap:/鯔/ボラ（p.9）	ホラ/鯔/†*Mugil*, Linn: Bora, Japon:（p.6）	No.77/*Mugil bora*, Jap:/鯔/ボラ（p.144）	1830	
	No.183/*Scomber*, Cuv: *Saba*, Jap:/鯖/サバ（p.10）	サバ/鯖/†*Scomber*, Cuv: *Saba*, Japon:（p.7）	No.183/*Scomber Saba*, Jap:/サバ/鯖（p.440）	1831	
	-	-	No.43/*Conger Hamo*, Jap:/鱧/ハモ（p.86）	1830	

No.	図版番号	名　　称	「慶賀魚図」	余白書き込み	1830年版リスト	1831年版リスト
28	図録72 FJ.なし 山口253	アカヤガラ *Fistularia petimba* Lacépède [*Fistularia immaculata*]		Fistularia tabacaria ?, Japon, Bürger [鉛筆]	-	-
29	図録73 FJ.1-1 山口1	アラ *Niphon spinosus* Cuvier [*Niphon spinosus*]		Niphon spinosus, ad., No.174 [鉛筆]	Perca, Cuv: Okitara, Jap (p.7)	No.174/*Perca*, Cuv: *Okitara*, Jap:/オキタラ/沖大口魚 (p.11)
30	図録75 FJ.21-1 山口48	カサゴ *Sebasticus marmoratus* (Cuvier) [*Sebastes marmoratus*]		Scorpaena, No.165, Japan [鉛筆]	N.1/Scorpaena, Schn: Arakabu (p.7)	No.165/*Scorpaena*, Schn: *Arakabu*, Jap:/アラカブ (p.10)
31	図録77 FJ.32 山口67	クロダイ *Acanthopagrus schlegelii* (Bleeker) [*Chrysophrys longispinis*]		[..] No.67 [鉛筆]	No.67/Sparus, Cuv: Tsin, Jap (p.6)	No.67/*Sparus*, Cuv: *Tsin*, Jap:/チン (p.8)
32	図録なし FJ.42-1 山口79	(左上)ベニヒシダイ *Antigonia rubescens* (Günther) [*Hypsinotus*]		No.197, Japon, Bürger [鉛筆]	-	No.197/*Chaetodon*, Lacep: *Benhatatate*, Jap:/ベニハタタテ (p.15)
33	図録79 FJ.41-1 山口77	(右上)カゴカキダイ *Microcanthus strigatus* (Cuvier) [*Chaetodon strigatus*]		Ephippinus, No.99, Japon [鉛筆]	99/Chaetodon, L, Simahatatate (p.9)	No.99/*Chaetodon*, Lacep: *Simahatatate*, Jap:/シマハタタテ (p.15)
34	図録なし FJ.41-2 山口78	(中央下)ゲンロクダイ *Chaetodon modestus* Temminck & Schlegel [*Chaetodon modestus*]		Chaetodon modestus, n. sp. No.98, Japon, Bürger [鉛筆]	98/Chaetodon, Lac: Hatatate (p.9)	No.98/*Chaetodon*, Lacep: *Hatatate*, Jap:/ハタテ (p.15)
35	図録83 FJ.15a 山口38	セミホウボウ *Dactyloptera orientalis* (Cuvier) [*Dactyloptera orientalis*]		-	-	-
36	図録84 FJ.42-1 山口80	チョウチョウウオ *Chaetodon auripes* Jordan & Snyder [*Chaetodon aureus*]		-	-	-

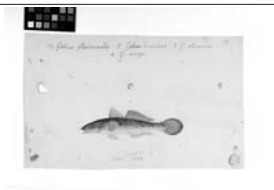
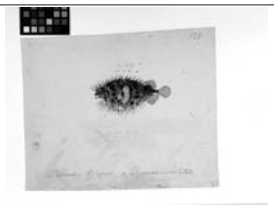
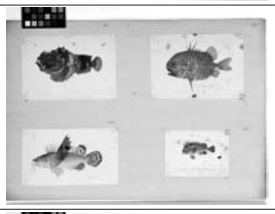
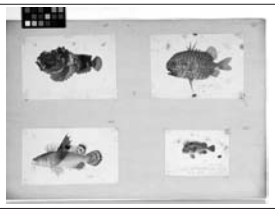
	1832年版リスト	1834年版リスト	ビュルガー「報告」	推定制作年代	備考
	-	-	-	1830-1832	
	No.174/*Perca*, Cuv: *Okitara*, Jap:/沖大口魚/オキタラ（p.9）	オキタラ/沖大口魚/†*Perca*, Cuv: *Okitara*, Japon:（p.7）	No.174/*Perca Okitara*, Jap:/ヲキタラ/沖大口魚（p.412）	1831	
	No.165/*Scorpaena*, Schn: *Arakabu*, Jap:/アラカブ（p.8）	アラカブ/†*Scorpaena*, Schn: *Arakabu*, Japon:（p.6）	No.165/*Scorpaena Arakabu*, Jap:/アラカブ（p.383）	1831	1830年版リストの「N.1」は書き損じか、あるいは書く途中で中断したものか。
	No.67/*Sparus*, Cuv: *Tsin*, Jap:/チン（p.7）	チン/鯛之類/†*Sparus*, Cuv: *Tsin*, Japon:（p.5）	No.67/*Sparus Tsin*, Jap:/海鯽/チン（p.122）	1830	
	No.197/*Chaetodon*, Lac: *Benhatatate*, Jap:/ベニハタタテ（p.12）	-	No.197/*Chaetodon Benhatatate*, Jap:/ベニハタタテ（p.487）	1831	
	No.99/*Chaetodon*, Lac: *Simahatatate*, Jap:/シマハタタテ（p.11）	シマハタタテ/†*Chaetodon*, Lacep: *Simahatatate*, Japon:（p.8）	No.99/*Chaetodon Simahatatate*, Jap:/シマハタタテ（p.198）	1830	
	No.98/*Chaetodon*, Lac: *Hatatate*, Jap:/ハタタテ（p.11）	ハタ丶テ/†*Chaetodon*, Lacep: *Hatatate*, Japon:（p.8）	-	1830	
	-	-	-	1830-1832	
	-	-	-	1830-1832	

No.	図版番号	名　　称	「慶賀魚図」	余白書き込み	1830年版リスト	1831年版リスト
37	図録85 FJ.55 山口97	バショウカジキ *Istiphorus platypterus* (Shaw & Nodder) [*Histiophorus orientalis*]		No.195［ペン］	-	No.195/*Istiophorus*, Cuv: *Heiwo*, Jap:/ヘウヲ (p.15)
38	図録86 FJ.43 山口82	ツバメウオ *Platax teira* (Forsskål) [*Platax vespertilio japonicus*]		Platex ?, Jaon. Bürger［鉛筆］	-	-
39	図録87 FJ.44-1 山口83	ムレハタタテダイ *Heniochus diphreutes* Jordan [*Heniochus macrolepidotus*]		He[..], No.198, Japon［鉛筆］	-	No.198/*Chaetodon*, Lacep: *Kohatatate*, Jap:/コハタ丶テ (p.15)
40	図録なし FJ.2a 山口5	キハッソク *Diploprion bifasciatum* Cuvier [*Diploprion bifasciatum*]		Diplop[rion], No.94, Bürger, Japon［鉛筆］	94/Capros, Lacep: Zewase, Jap (p.9)	No.94/*Capros*, Lacep: *Zewase*, Jap:/セワセ (p.15)
41	図録91 FJ.5-2 山口12	ルリハタ *Aulacocephalus temmincki* Bleeker [*Aulacocephalus*]		Serranus? No.69, Japon, Bürger［鉛筆］	No.69/Serranus, Cuv: Hanaara (p.6)	No.69/*Serranus*, Cuv: *Hanaara*, Jap:/ハナアラ/花鯒 (p.9)
42	図録92 FJ.19 山口47	ミノカサゴ *Pterois lunulata* Temminck & Schlegel [*Pterois lunulata*]		Pterois, No.168, Japon［鉛筆］	Pterois, Cuv: Jamanokami, Jap: (p.7)	No.168/*Pterois*, Cuv: *Jamanokami*, Jap:/ヤマノカミ (p.11)
43	図録93 FJ.123-1 山口208	トラフグ *Takifugu rubripes* (Temminck & Schlegel) [*Tetraodon rubripes*]		No.105［ペン］ Tetraodon, No.105, Japon［鉛筆］	Tetraodon, Linn: Mabuku, Jap: (p.2)	No.105/*Tetraodon*, Linn: *Mabuku*, Jap:/マブク/真河豕 (p.2)
44	図録94 FJ.124-3 山口212	キタマクラ *Canthigaster rivulata* (Temminck & Schlegel) [*Tetraodon rivulatus*]		Tetraodon rivulatus, no.25, Japon, Bürger［鉛筆］	No.25/Tetraodon, Linn: Kitamakura, Jap: (p.2)	No.25/*Tetraodon*, Linn: *Kitamakura*, Jap:/キタマクラ/北枕 (p.2)
45	図録95 FJ.125-3 山口215	モヨウフグ *Arothron stellatus* (Bloch & Schneider) [*Tetraodon lineatus*]		-	-	-

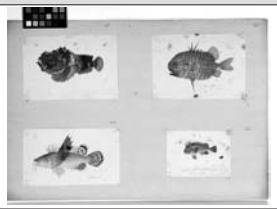
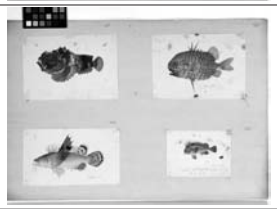
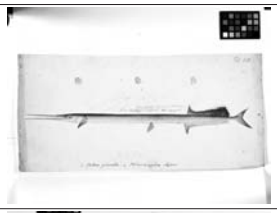
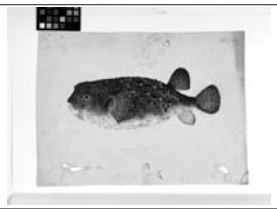
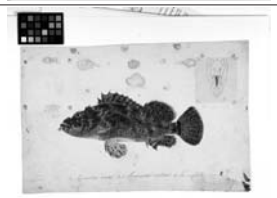
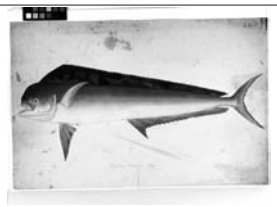
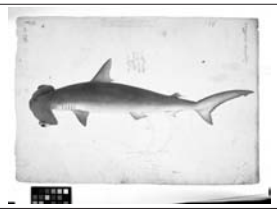
	1832年版リスト	1834年版リスト	ビュルガー「報告」	推定制作年代	備考
	No.195/*Istiophorus*, Cuv: *Heiwo*, Jap:/氷魚之類/ヘイヲ（p.11）	-	No.195/*Istiophorus Heiwo*, Jap:/ヘイヲ/氷魚之類（p.480）	1831	
	-	-	-	1830-1832	
	No.198/*Chaetodon*, Lac: *Kohatatate*, Jap:/コハタタテ（p.12）	-	-	1831	
	No.94/*Capros*, Lac: *Zewase*, Jap:/セワセ（p.11）	セイワセ/†*Capros*, Lacep: *Zeiwase*, Japon:（p.8）	No.94/*Capros Zewase*［訂正あり］, Jap:/セワセ（p.190）	1830	
	No.69/*Serranus*, Cuv: *Hanaara*, Jap:/花鯒/ハナアラ（p.7）	ハナアラ/花鯒/†*Serranus*, Cuv: *Hanaara*, Japon:（p.5）	No.69/*Serranus Hanaara*, Jap:/花鯒/ハナアラ（p.126）	1830	
	No.168/*Pterois*, Schn: *Jamanokami*, Jap:/ヤマノカミ（p.9）	ヤマノカミ/†*Pterois*, Schn: *Jamanokami*, Japon:（p.6）	No.168/*Pterois Jamanokami*, Jap:/ヤマノカミ/山之神魚（p.393）	1831	
	No.105/*Tetraodon*, Linn: *Mabuku*, Jap:/真河豚/マブク（p.2）	マフク/真河豚/†*Tetraodon*, Linn: *Mabuku*, Japon:（p.1）	No.105/*Tetraodon Mabuku*, Jap:/マブク/真河豚（p.213）	1831	
	No.25/*Tetraodon*, Linn: *Kitamakura*, Jap:/北枕/キタマクラ（p.2）	キタマクラ/北枕河豚/†*Tetraodon*, Linn: *Kitamakura*, Japon:（p.1）	No.25/*Tetraodon Kitamakura*, Jap:/北枕鰒/キタマクラ（p.53）	1830	
	-	-	-	1830-1832	

No.	図版番号	名　　称	「慶賀魚図」	余白書き込み	1830年版リスト	1831年版リスト
46	図録97 FJ.なし 山口239	オオセ *Orectolobus japonicus* Regan [*Crossorhinus barbatus*]		-	-	-
47	図録99 FJ.137 山口232	ノコギリザメ *Pristiophorus japonicus* Günther [*Pristiophorus cirratus*]		No.102［ペン］	*Pristis*, Lath: *Nokonozoo*[uwo], Jap:/ノコノウソ (p.1)	No.102/*Pristis*, Lath: *Nokonozoo*, Jap:/ノコノウサウ/鋸鮒魚 (p.1)
48	図録101 FJ.なし 山口241	ネコザメ *Heterodontus japonicus* (Duméril) [*Cestracion philippi*]		No.7［ペン］ Cestracion Sasaiwari［鉛筆］	No.7/*Cestracion*, Cuv: *Sasaiwari*, Jap:/サヾイワリ (p.1)	No.7/*Cestracion*, Cuv: *Sasaiwari*, Jap:/サヾイワリ/虎頭沙魚 (p.1)
49	図録102 FJ.132 山口227	ギンザメ *Chimaera phantasma* Jordan & Snyder [*Chimaera monstrosa*]		No.16［ペン］	No.16/*Chimaera*, Cuv: *Aginasi*, Jap: (p.2)	No.16/*Chimaera*, Cuv: *Aginasi*, Jap:/アギナシ/無鬥 (p.2)
50	図録103 FJ.140 山口235	シビレエイ *Narke japonica* (Temminck & Schlegel) [*Torpedo (Astrape) japonica*]		No.11［ペン］	No.11/*Torpedo*, Dum: *Honenasinozoo*[uwo], Jap:/ホ子ナシノーソー (p.1)	No.11/*Torpedo*, Dum: *Honenasinozoo*, Jap:/ホ子ナシノウサウ/無骨鱏魚 (p.1)
51	図録104 FJ.なし 山口240	アオザメ *Isurus oxyrinchus* Rafinesque [*Oxyrhina glauca*]		-	-	-
52	図録120 FJ.75-2 山口134	ワラスボ *Odontamblyopus rubicundus* (Hamilton) [*Amblyopus lacepedii*]		[No.13]6［ペン］ [Am..Taenioides], Lacepedii, No.136［鉛筆］	-	No.136/*Taenioides*, Lacep: *Dookiu*, Jap:/ドキウ/泥石鮒魚 (p.6)
53	図録122 FJ.76-3 山口137	ムツゴロウ *Boleophthalmus pectinirostris* (Linnaeus) [*Boleophthalmus boddaerti*]		Boleophthalmus [Boddaertii], No.137［鉛筆］	-	No.137/*Periophtalmus*, Schn: *Motsiguro*, Jap:/ムツゴロ/石鮒魚 (p.6)
54	図録125 FJ.96 山口163	コイ *Cyprinus carpio* Linnaeus [*Cyprinus haematopterus*]		No.119［ペン］ Cyprinus haematopterus, No.119. Vide Cuv. 16, p.53.［鉛筆］	[Cyprinus, Cuv: Koi, Jap: (p.3)]	No.119/*Barbus*, Cuv: *Koi*, Jap:/コイ/鯉 (p.4)

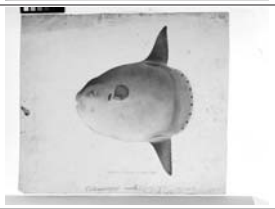
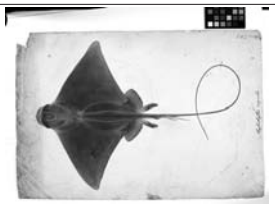
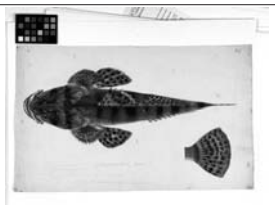
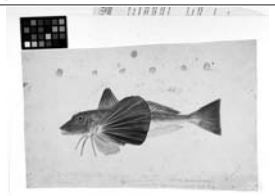
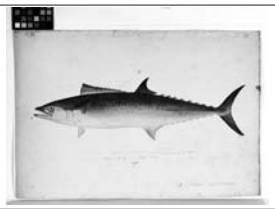
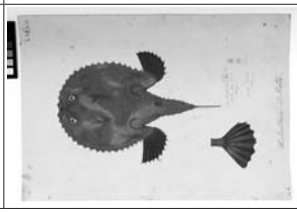
	1832年版リスト	1834年版リスト	ビュルガー「報告」	推定制作年代	備考
	-	-	-	1830-1832	各リストおよび「報告」の「No.8/*Squatina Oozei*, Jap:/ヲーセイ」はカスザメのこと。
	No.102/*Pristis*, Lath: *Nokonozoo*, Jap:/鋸鮒魚/ノコノウサウ（p.1）	ノコノオサウ/鋸鮒魚/†*Pristis*, Lath: *Nokonozoo*, Japon:（p.1）	No.102/*Pristis Nokonozoo*, Jap:/ノコノウサウ/鋸鮒魚（p.203）	1831	
	No.7/*Cestracion*, Cuv: *Sasaiwari*, Jap:/虎頭沙魚/サヽイワサ（p.1）	サヾイワリ/虎頭沙魚/†*Cestracion*, Cuv: *Sasaiwari*, Japon:（p.1）	No.7/*Cestracion Sasaiwari*, Jap:/サザイワリ（p.14）	1830	
	No.16/*Chimaera*, Linn: *Aginasi*, Jap:/無鰐/アギナシ（p.1）	アギナシ/無鰐/†*Chimaera*, Linn: *Aginasi*, Japon:（p.1）	No.16/*Chimaera aginasi*, Jap:/無腮鱶/アギナシ（p.33）	1830	
	No.11/*Torpedo*, Dum: *Honenasnozoo*, Jap:/無骨鮒魚/ホ子ナシノウサウ（p.1）	ホ子ナシノオサウ/無骨鮒魚/†*Torpedo*, Dum: *Honenasnozoo*, Japon:（p.1）	No.11/*Torpedo Honenasinozoo*, Jap:/無骨鮫/ホ子ナシノーソー（p.23）	1830	
	-	-	-	1830-1832	
	No.136/*Taenioides*, Lac: *Dookiu*, Jap:/泥石鮎魚/ドキウ（p.5）	ドキウ/泥石鮎魚/†*Taenioides*, Lacep: *Dookiu*, Jap:（p.4）	No.136/*Taenioides Dookiu*, Jap:/ドキウ/泥石鮎魚（p.295）	1831	魚図余白のペン書き整理番号が一部切断。
	No.137/*Periophtalmus*, Schn: *Motsiguro*, Jap:/石鮎魚/ムツゴロ（p.5）	ムツゴロ/石鮎魚/†*Periophtalmus*, Cuv: *Motsiguro*, Japon:（p.4）	No.137/*Periophtalmus Motsiguro*, Jap:/モチグロ/石鮎魚（p.299）	1831	
	No.119/*Barbus*, Cuv: *Koi*, Jap:/鯉/コイ（p.3）	コイ/鯉/†*Barbus*, Cuv: *Koi*, Japon:（p.3）	No.119/*Barbus*［訂正あり］*Koi*, Jap:/コイ/鯉（p.255）	1831	

No.	図版番号	名　　称	「慶賀魚図」	余白書き込み	1830年版リスト	1831年版リスト
55	図録126 FJ.102-5 山口168	メダカ *Oryzias latipes* (Temminck & Schlegel) [*Poecilia latipes*]		Poecilia ? No.120 [鉛筆]	[Cyprinus, Cuv: Medaka, Jap: (p.3)]	No.120/*Poecilia*, Schn: *Medaka*, Jap:/メタカ (p.4)
56	図録127 FJ.98-1 山口164	ギンブナ *Carassius auratus langsdorfii* (Temminck & Schlegel) [*Carassius langsdorfii*]		Carassius Langsdorffii, Cuv. Val. 16, 99, 118→ [No.118] [鉛筆]	Cyprinus, Cuv: Funa, Jap: (p.3)	No.118/*Cyprinus*, Cuv: *Funa*, Jap:/フナ/鮒 (p.4)
57	図録129 FJ.103-1 山口170	ドジョウ *Misgurnus anguillicaudatus* (Cantor) [*Cobitis maculata*]		Cobitis, No.38 [..] [鉛筆]	No.38/Cobitis, Linn: Dôsjô, Jap: (p.3)	No.38/*Cobitis*, Linn: *Doosjoo*, Jap:/ドシヤウ/泥鰍 (p.4)
58	図録130 FJ.74-1 山口129	マハゼ *Acanthogobius flavimanus* (Temminck & Schlegel) [*Gobius flavimanus*]		Gobius flavimanus, No.53 [鉛筆]	No.53/Gobius, Laceped: Okihaze, Jap (p.4)	No.53/*Gobius*, Lacep: *Okihaze*, Jap:/オキハゼ/沖蝦虎魚 (p.6)
59	図録131 FJ.2-1 山口3	スズキ *Lateolabrax japonicus* (Cuvier) [*Perca-labrax japonicus*]		Perca Labrax japonicus, ad. No.173 [鉛筆]	Perca, Cuv: Zusuki, Jap: (p.7)	No.173/*Perca*, Cuv: *Zuzuki*, Jap:/スヽキ/鱸魚 (p.11)
60	図録132 FJ.67-3 山口117	ギンカガミ *Mene maculata* (Block & Schneider) [*Mene maculata*]		-	-	-
61	図録134 FJ.128-2 山口219	ハリセンボン *Diodon holocanthus* Linnaeus [*Diodon novemmaculatus*]		Diodon, No.18, Japon, Bürger [鉛筆]	No.18/*Diodon*, Linn: *Kenbuku*, Jap: (p.2)	No.18/*Diodon*, Linn: *Kenbuku*, Jap:/ケンブク/釼河豕 (p.2)
62	図録なし FJ.17-1 山口42	(左上)ダルマオコゼ *Erosa erosa* (Langsdorf) [*Synanceia erosa*]		Synan[..], Bürger, No.167 [鉛筆]	-	No.167/*Synanceia*, Schn: *Benoogose*, Jap:/ベニオゴセ/紅虎魚 (p.11)
63	図録136 FJ.22-1 山口51	(右上)マツカサウオ *Monocentris japonicus* (Houttuyn) [*Monocentris japonicus*]		[..]No.80 [鉛筆]	No.80/ Lepisacanthus, Lacep: Matskasa (p.8)	No.80/*Lepisacanthus*, Lacep: *Matskasa*, Jap:/マツカサウヲ/松笠魚 (p.12)

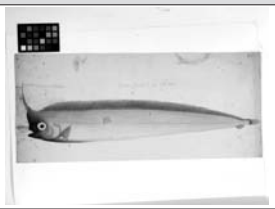
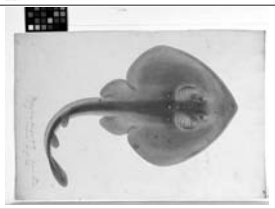
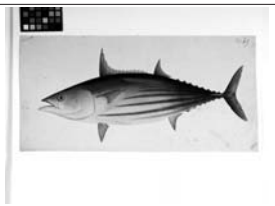
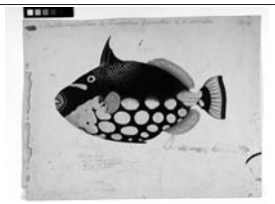
	1832年版リスト	1834年版リスト	ビュルガー「報告」	推定制作年代	備考
	No.120/*Poecilia*, Schn: *Medaka*, Jap:/メタカ（p.3）	メダカ/†*Poecilia*, Schn: *Medaka*, Japon:（p.3）	No.120/*Poecilia Medaka*, Jap:/メダカ（p.258）	1831	
	No.118/*Cyprinus*, Cuv: *Funa*, Jap:/鮒/フナ（p.3）	フナ/鮒/†*Cyprinus*, Cuv: *Funa*, Japon:（p.3）	No.118/*Cyprinus Funa*, Jap:/フナ/鮒（p.252）	1831	
	No.38/*Cobitis*, Linn: *Doosjo*, Jap:/泥鰍/ドジヤウ（p.3）	ドジヤウ/泥鰍/†*Cobitis*, Linn: *Doosjoo*, Japon:（p.3）	No.38/*Cobitis doosjoo*, Jap:/鰌魚/ドヂヤウ（p.80）	1830	
	No.53/*Gobius*, Lac: *Okihaze*, Jap:/沖蝦虎魚/ヲキハゼ（p.5）	オキハゼ/沖蝦虎魚/†*Gobius*, Lacep: *Okihaze*, Japon:（p.4）	No.53/*Gobius Okihade*, Jap:/沖沙魚/ヲキハゼ（p.106）	1830	
	No.173/*Perca*, Cuv: *Zusuki*, Jap:/鱸魚/ズキ（p.9）	ズキ/鱸/†*Perca*, Cuv: *Zuzuki*, Japon:（p.7）	No.173/*Perca Zusuki*, Jap:/ズキ/鱸（p.409）	1831	
	-	-	-	1830-1832	
	No.18/*Diodon*, Linn: *Kenbuku*, Jap:/鈎河豚/ケンブク（p.2）	ケンフク/鈎河豚/†*Diodon*, Linn: *Kenbuku*, Japon:（p.1）	No.18/*Diodon Kenbuku*, Jap:/刺鰒/ケンブク（p.39）	1830	
	No.167/*Synanceia*, Schn: *Benoogose*, Jap:/紅虎魚/ベニオゴゼ（p.9）	ヘニオゴセ/紅虎魚/†*Synanceia*, Schn: *Benoogose*, Japon:（p.6）	No.167/*Synanceia Benoogose*, Jap:/ベニオゴゼ/紅虎魚（p.390）	1831	
	No.80/*Lepisacanthus*, Lac: *Matskasa*, Jap:/松笠魚/マツカサ（p.10）	マツカサ/松笠魚/†*Lepisacanthus*, Lac: *Matskasa*, Japon:（p.7）	No.80/*Lepisacanthus Matskaza*, Jap:/松笠魚/マツカサイヲ（p.150）	1830	

No.	図版番号	名　　称	「慶賀魚図」	余白書き込み	1830年版リスト	1831年版リスト
64	図録なし FJ.22a-2 山口53	(左下)ハチ *Apistus carinatus* (Bloch & Schneider) [*Apistus alatus*]		Apistus alatus	-	-
65	図録138 FJ.22-2 山口50	(右下)ハオコゼ *Hypodytes rubripinnis* (Temminck & Schlegel) [*Apistus rubripinnis*]		Apistus rubripinnis, f, japon, Bürger, No.169［鉛筆］	-	No.169/*Taenianotus*, Lac: *Benginjoo*, Jap:/ベニギンキヤウ (p.11)
66	図録141 FJ.118 山口201	ヘリシロウツボ *Gymnothorax hepatica* (Rüppell) [*Muraena albimarginata*]		-	-	-
67	図録143 FJ.9a 山口21	エビスダイ *Ostichthys japonicus* (Cuvier) [*Myripristis japonicus*]		-	-	-
68	図録145 FJ.110-1 山口187	ダツ *Strongylura anastomella* (Valenciennes) [*Belone gracilis*]		Belone, No.34［鉛筆］	No.34/Bellone, Cuv: Awosajoru, Jap: (p.3)	No.34/*Bellona*, Cuv: *Awosajori*, Jap:/アヲサヨリ/青鱵 (p.3)
69	図録146 FJ.128-1 山口216	イシガキフグ *Chilomycterus reticulatus* (Linnaeus) [*Diodon tigrinus*]		Diodon, No.17, Bürger, Japon, Tigrinus, Cuv?［鉛筆］	No.17/*Diodon*, Linn: *Torabuku*, Jap: (p.2)	No.17/*Diodon*, Linn: *Torabuku*, Jap:/トラブク/虎河魚 (p.2)
70	図録149 FJ.17-2 山口44	オニカサゴ *Scorpaenopsis cirrosa* (Thunberg) [*Scorpaena cirrhosa*]		Scorpaena, no.72 [..], Bürger［鉛筆］	No.72/Scorpaena, Schn: Oniarakabu (p.7)	No.72/*Scorpaena*, Schn: *Oniarakabu*, Jap:/オニアラカブ (p.10)
71	図録150 FJ.64 山口112	シイラ *Coryphaena hippurus* Linnaeus [*Coryphaena japonica*]		［整理番号の下線のみ残存］［ペン］Coryphaena, No.95, Japon［鉛筆］	95/Coryphaena, Lin: hiiwo, Jap: (p.9)	No.95/*Coryphaena*, Cuv: *Hiiwo*, Jap:/ヒウヲ/氷魚 (p.15)
72	図録151 FJ.138 山口233	シロシュモクザメ *Sphyrna zygaena* (Linnaeus) [*Zygaena malleus*]		No.5［ペン］Zijgaena malleus, Japon, Bürger［鉛筆］	No.5/*Zygaena*, Cuv: *Simokfuka*, Jap:/シモクフカ (p.1)	No.5/*Zygaena*, Cuv: *Simokfuka*, Jap:/シモクフカ/雙髻沙魚 (p.1)

	1832年版リスト	1834年版リスト	ビュルガー「報告」	推定制作年代	備考
	-	-	-	1830-1832	
	No.169/*Taenianotus*, Lac: *Bengigjoo*, Jap:/ベニギギヨ（p.9）	ベニギヤウ/†*Taenianotus*, Lacep: *Bengigjoo*, Japon:（p.6）	No.169/*Taenianotus Bengigjoo*, Jap:/ベニギンギョ/紅銀魚（p.397）	1831	
	-	-	-	1830-1832	
	-	-	-	1830-1832	
	No.34/*Bellona*, Cuv: *Awosajori*, Jap:/青鱵/アヲサヨリ（p.3）	アヲサヨリ/青鱵/†*Bellona*, Cuv: *Awosajori*, Japon:（p.2）	No.34/*Bellona Awosajoru*, Jap:/青細魚/アヲサヨリ（p.72）	1830	
	No.17/*Diodon*, Linn: *Torabuku*, Jap:/虎河豚/トラフク（p.1）	トラフク/虎河豚/†*Diodon*, Linn: *Torafuku*, Japon:（p.1）	No.17/*Diodon torabuku*, Jap:/虎鰒/トラブク（p.37）	1830	
	No.72/*Scorpaena*, Schn: *Oniarakabu* Jap:/ヲキアラカブ（p.8）	ウ子アラガブ/†*Scorpaena*, Schn: *Oniarakabu*, Japon:（p.6）	No.72/*Scorpaena Oniarakabu*, Jap:/ヲニアラカブ（p.132）	1830	
	No.95/*Coryphaena*, Cuv: *Hiiwo*, Jap:/氷魚/ヒイヲ（p.11）	ヒイヲ/氷魚/†*Coryphaena*, Cuv: *Hiiwo*, Japon:（p.8）	No.95/*Coryphaena Hiiwo*, Jap:/ヒイヲ（p.192）	1830	
	-	-	No.5/*Zygaena simokfuka*, Jap:/鐘木鱶/シモクフカ（p.10）	1830	

No.	図版番号	名　　称	「慶賀魚図」	余白書き込み	1830年版リスト	1831年版リスト
73	図録153 FJ.120-1 山口202	コバンザメ *Echeneis naucrates* Linnaeus [*Echeneis naucrates*]		Echeneiis naucrates, No.129［鉛筆］	-	No.129/*Echeneis*, Linn: *Kobaniwo*, Jap:/コバンウヲ/小判魚（p.5）
74	図録155 FJ.127 山口217	マンボウ *Mola mola* (Linnaeus) [*Orthagoriscus mola*]		Orthragoriscus, No.26, Japan, Bürger［鉛筆］	No.26/ *Orthagoriscus*, Sch: *Ukigi*, Jap:（p.2）	-
75	図録なし FJ.10a 山口24	サツオミシマ *Ichthyscopus lebeck sannio* Whitley [*Uranoscopus inermis*]		Uranoscopus, No.178, Japon［鉛筆］	-	No.178/*Uranoscopus*, Linn: *Mesimajoorosi*, Jap:/メシマジヨロシ/虎魚之類（p.12）
76	図録159 FJ.142 山口237	トビエイ *Myliobatis tobijei* Bleeker [*Myliobates aquila*]		No.15［ペン］ Myliobatis, Japon, Bürger［鉛筆］	No.15/*Myliobatus*, Dum: *Tobijei*, Jap:（p.2）	No.15/*Myliobatis*, Dum: *Tobijei*, Jap:/トビエイ/鳶鱝魚（p.1）
77	図録160 FJ.48 山口89	スマ *Euthynnus affinis* (Cantor) [*Thynnus thunnina*]		No.88［ペン］ Thynus, No.88, Japon, jap[..], Jokowakatsuwo［鉛筆］	88/Thynus, Cuv: JokowaKatsu（p.8）	No.88/*Thynus*, Cuv: *Jokowakatsuwo*, Jap:/ヨコバカツヲ/鯛鰹魚之類（p.13）
78	図録162 FJ.15-2 山口37	ワニゴチ *Inegocia guttata* (Cuvier) [*Platycephalus guttatus*]		Platycephalus, No.82, Japon［鉛筆］	82/Cottus, Lin: Onikuts（p.8）	No.82/*Cottus*, Linn: *Onikotsi*, Jap:/オニコチ/鬼牛尾魚（p.12）
79	図録164 FJ.14a-3 山口33	ホウボウ *Chelidonichthys spinosus* (McClelland) [*Trigla kumu*]		Trigla, No.179, Japon, Bürger［鉛筆］	-	No.179/*Trigla*, Linn: *Kanagasira*, Jap:/カナガシラ/火魚（p.12）
80	図録166 FJ.53-2 山口95	サワラ *Scomberomorus niphonius* (Cuvier) [*Cybium niphonium*]		No.89［ペン］ Thynus, No.89 - Bürger, Japon, Sagotsi［鉛筆］	89/Thynus, Cuv: Sagotsi（p.8）	No.89/*Thynus*, Cuv: *Sagotsi*, Jap:/サゴチ/青魚子（p.13）
81	図録168 FJ.82 山口143	アカグツ *Halieutaea stellata* (Vahl) [*Halieutaea stellata*]		Malthe, No.85, Japon［鉛筆］	85/Maltheus, Cuv: Akaankoo（p.8）	No.85/*Maltheus*, Cuv: *Akaanko*, Jap:/アカアンコウ/赤華臍魚（p.13）

	1832年版リスト	1834年版リスト	ビュルガー「報告」	推定制作年代	備考
	No.129/*Echeneis*, Linn: *Kobaniwo*, Jap:/小判魚/コバンイヲ（p.4）	コバンイヲ/小判魚/†*Echeneis*, Linn: *Kobaniwo*, Japon:（p.3）	No.129/*Echeneis Kobaniwo*, Jap:/コバンイヲ/小判魚（p.273）	1831	
	-	-	No.26/*Mola ukigi*, Jap:/浮木魚/ウキギ（p.55）	1830	
	No.178/*Uranoscopus*, Linn: *Mesimajoorosi*, Jap:/虎魚之類/メシマジヨロシ（p.9）	メシマジヨロシ/虎魚之類/†*Uranoscopus*, Linn: *Mesimajoorosi*, Japon:（p.7）	No.178/*Uranoscopus Mesima*, Jap:/メシマジヨロシ/虎魚之類（p.424）	1831	
	No.15/*Myliobatus*, Dum: *Tobijei*, Jap:/飛鱝魚/トヒエイ（p.1）	トヒエイ/飛鱝/†*Myliobatus*, Dum: *Tobijei*, Japon:（p.1）	No.15/*Mourine Tobijei*, Jap:/飛鱝/トビエイ（p.31）	1830	
	-	-	No.88/*Thynus Jokowakatsuwo*, Jap:/鰹之類/ヨコワカツヲ（p.173）	1830	
	No.82/*Cottus*, Linn: *Onikotsi*, Jap:/鬼牛尾魚/オニゴチ（p.10）	オニコチ/鬼牛尾魚/†*Cottus*, Linn: *Onikotsi*, Japon:（p.7）	No.82/*Cottus*［訂正あり］*Onikutsi*, Jap:/鬼鯒/ヲニコチ（p.155）	1830	
	No.179/*Trigla*, Linn: *Kanagasira*, Jap:/火魚/カナカシラ（p.9）	カナガシラ/火魚/†*Trigla*, Linn: *Kanagasira*, Japon:（p.7）	No.179/*Trigla Kanagasira*, Jap:/カナガシラ/火魚（p.428）	1831	
	No.89/*Thynus*, Cuv: *Sagotsi*, Jap:/青魚子/サゴチ（p.10）	サゴチ/青魚子/†*Thynus*, Cuv: *Sagotsi*, Japon:（p.7）	No.89/*Thynus Sagotsi*, Jap:/サゴチ（p.176）	1830	
	-	アカアンコウ/赤華臍魚/†*Maltheus*, Cuv: *Akaankoo*, Japon:（p.7）	No.85/*Maltheus Akaankoo*, Jap:/赤鮟鱇/アカアンコー（p.164）	1830	

No.	図版番号	名　　称	「慶賀魚図」	余白書き込み	1830年版リスト	1831年版リスト
82	図録170 FJ.71-2 山口123	アカナマダ *Lophotus capellei* Temminck & Schlegel [*Lophotes capellei*]		Lophotes Capellei, n, sp. No.132［鉛筆］	-	No.132/*Lophote*, Lacep: *Species*, No.1/シャケノウヲノルイ/鰥之類（p.5）
83	図録172 FJ.113-2 山口193	ウナギ *Anguilla japonica* Temminck & Schlegel [*Anguilla japonica*]		Unagi, No.130［鉛筆］	-	No.130/*Muraena*, Lacep: *Unagi*, Jap:/ウナギ/鰻（p.5）
84	図録174 FJ.なし 山口247	ウチワザメ *Platyrhina sinensis* (Bloch & Schneider) [*Platyrhina sinensis*]		-	-	-
85	図録177 FJ.49 山口90	カツオ *Katsuwonus pelamis* (Linnaeus) [*Thynnus pelamys*]		No.86［赤鉛筆］	86/Thynus, Cuv: Katsuwo（p.8）	No.86/*Thynus*, Cuv: *Katsuwo*, Jap:/カツヲ/鰹鰹魚（p.13）
86	図録179 FJ.129-1 山口220	モンガラカワハギ *Balistoides conspicillum* (Bloch & Schneider) [*Balistes conspicillum*]		Ba[..] 106, Japon, Bürger［鉛筆］	-	No.106/*Balistes*, Cuv: *Komoniwo*, Jap:/コモンウヲ/小紋魚（p.2）

	1832年版リスト	1834年版リスト	ビュルガー「報告」	推定制作年代	備考
	-	-	No.132/*Lophote*…, Jap:/シャケノウヲノルイ/鱖之類（p.282）	1831	
	-	-	No.130/*Muraena Unagi*, Jap:/ウナギ/鰻（p.276）	1831	
	-	-	-	1830-1832	
	No.86/*Thynus*, Cuv: *Katsuwo*, Jap:/鯛鰹魚/カツヲ（p.10）	カツオ/鯛/†*Thynus*, Cuv: *Katsuwo*, Japon:（p.7）	No.86/*Thynus Katsuwo*, Jap:/鰹/カツヲ（p.167）	1830	
	-	-	No.106/*Balistes Komoniwo*, Jap:/コモンイヲ/小紋魚（p.216）	1831	

小結

本稿ではビュルガーに由来する諸史料に残された整理番号の存在から「慶賀魚図」各図の推定制作年代を再同定し、さらにその根拠としての「照合表」を提示した。もとより限られた史料と断片的な情報に基づく考察であるため、今後の更なる史料博捜や「慶賀魚図」に関する分類学的検討、さらには画紙・顔料の分析による再検証が是非とも求められよう。博雅諸賢のご教示とご批正を俟つ次第である。最後に「照合表」から読み取れる、ビュルガーの魚類収集活動の特徴をまとめ、結びに代えたい。

まず計４回の発送分の「分類リスト」は、所収魚種の標本を何点送ったかまでは明記していないものの[*44]、毎回送付されていた魚に関しては、当時の長崎で容易に入手することができ、あるいは安定的に市場に供給されていた魚とみてよかろう。たとえばカツオに関するビュルガー「報告」には、

> 備考：この種のカツオは主として夏に大量に、しかし常に外洋で捕獲される。天候が許す限り漁船は沖に出て、そして驚くべき速さで、夕刻には捕まえたものをたいてい生きたままで魚市場に持ち帰る。日本人のもっとも求める食料の一つで、この魚を可能な限り新鮮な生の状態で醤油と酒で食べる。彼らはこれをとくに夏は非常に健康によく、涼をとるものと考えており、毎日百隻以上の漁船が豊富な漁獲とともに長崎［港］に戻ってくるのを見ることができる。これを鰹節Katsuwobosとして乾燥させたものは、国内の通商の主要品目となっており、またそれらは中国人によってもよく輸出される[*45]

と見え、往時のカツオ漁のにぎわいを伝えているが、「照合表」から分かるように、ビュルガーは計4回の発送ともカツオの標本を送っていた[*46]。このようにビュルガーは、同じ種であっても繰り返し送付するということを行っており、シーボルトの「単に新しい種類のみならず、自然にあるものすべてを蒐集」するという方針を忠実に実践している[*47]。当時の長崎の漁業環境をこれほど具体的に伝える資料は他に知られておらず、その意味でもビュルガーの残した史料群はきわめて貴重な情報源である。なおビュルガーが属名の典拠とした、

Cuv: =Georges Cuvier（1769-1832）
Linn: =Carl Linnaeus（1707-1778）
Lac[ep]: =Bernard Germain de Lacépède（1756-1825）
Bl: =Marcus Elieser Bloch（1723-1799）
Schn: =Johann Gottlob Theaenus Schneider（1750–1822）
Dum: =André Marie Constant Duméril（1774-1860）
Lath: =John Latham（1740-1837）

といった情報は、当時出島にあったこれらの学者の著作をビュルガーが利用していたことを示しており、江戸後期の舶載洋書の研究にとっても興味深いものと思われる[*48]。

また甲殻類の「分類リスト」「報告」の日本語名に、長崎・佐賀の方言が採用されていることが既に指摘されているが[*49]、魚類についても同様のことが指摘できる。シーボルトは漁師達が使用している和名が地方名であることを十分認識しており、その点を注意するよう後任者にも呼びかけていたが[*50]、ビュルガーの魚類収集活動がほとんど長崎に限定されたものであったことを考えると、和名の多くが長崎方言であることはむしろ当然のことであった。そのいくつかを第2節「照合表」から下に抜き出すと、

ビュルガーの和名	標準和名（照合表番号）
アゴ／飛魚	トビウオ（6）
コウムキ	カワハギ（11）
アラカブ	カサゴ（30）
ノコノウソウ／鋸鮲魚	ノコギリザメ（47）
サザエワリ／虎頭沙魚	ネコザメ（48）
ホネナシノウソウ／無骨鮲魚	シビレエイ（50）
ヒウオ／氷魚	シイラ（71）

この中で「アゴ（トビウオ）」「アラカブ（カサゴ）」は現在も長崎で日常的に用いられており、とりわけ

前者はビュルガーの報告したAgooという名が、現在有効な学名 *Cypselurus agoo agoo* に反映されている例である。「サザエワリ（ネコザメ）」は、サザエなどを殻ごと噛み割って食べることから来た名であろうが、長崎ではこれを「さずぇかみ」と呼ぶ地域もあり、「ホネナシノウソウ（シビレエイ）」「ノコノウソウ（ノコギリザメ）」の“ノウソウ”はサメ・エイの類を指す「のおそ」のことである[*51]。また「コウムキ（カワハギ）」「ヒウオ（シイラ）」については、ごく少数ではあるが現在も使用例が確認されている[*52]。これ以外にもビュルガーが調査した和名の中には、すでに失われた長崎独自の方言が多く含まれることが確実であり、その研究が今後の課題として残されていることを指摘しておきたい。

謝辞：

財団法人東洋文庫、ライデン国立自然史博物館からは、本稿に掲載した図版の複製許可を頂きました。また本稿の執筆にあたっては、山口隆男氏より資料をご提供頂き、M.J.P. van Oijen氏からは貴重な助言を頂きました。記して感謝申し上げます。また先の特別企画展の開催にあたって多大なご協力を頂いたライデン国立自然史博物館館長のR.J.M.ファン・ヘンフストゥム氏は、同展会期中の2007年８月19日に逝去されました。ここに再度深甚なる謝意を表するとともに、謹んでご冥福をお祈り申し上げます。

付録：

長崎歴史文化博物館編『特別企画展 シーボルトの水族館』（長崎：長崎歴史文化博物館、2007年）正誤表

該当箇所	誤	正
P5　上から2行目	C.T.テミンク	C.J.テミンク
P10・148　資料番号１	1842-1847	1842-1850
P16・148　資料番号11	（慶賀原図）（originally drawn by Keiga Kawahara）	削除
P60　資料番号102	五島から届いた珍しいサメ	五島から届いた珍しい魚
P73　資料番号127	庭のフナは防犯アラーム？ ビュルガー報告には「この美しい金魚[…]分類学的には同種である。 [この引用のビュルガー報告は、P41　資料番号59「ランチュウの一種」に関するもの]	昔もあまり食べなかった ビュルガー報告には「日本のすべての川や、他の流れのない淡水、湖できわめて一般的…海水魚が豊富なため、ほとんど食べられることがない」と見える。
P101　資料番号183	Unkwoun	Unknown
P120・154 資料番号215	マイペースが人気者／マンボウ *Mola mola* ／ Ocean sunfish 全世界の熱帯・温帯の海に広く分布する世界最大の硬骨魚のひとつで、最大で体長3.3メートル、体重2.3トンまでなると言われている。普段は水深100～300メートルのあたりに生息し、数時間おきに海面まで上昇し、急潜行するという行動を繰り返している。愛嬌のある顔が人気を呼んでいる。	体が長ーいマンボウ！？／クサビフグ *Ranzania laevis* ／ Slender sunfish マンボウに似ているが、マンボウよりも体が長く、くさび形をしている。唇が歯よりも前の方にのびだしていて、ろうと状になっているのが特徴。世界中の熱帯域に生息しており、体色は背側は青黒く、腹側は銀灰色で体側には色帯がある。六角形のうろこがあり、皮下に多少埋没し、敷石状に並んでいる。
P126　下から2行目	テミング	テミンク
P136　上から9行目	専門化	専門家
P154　資料番号218	「時代」欄記載漏れ	大正頃／ ca.1912-1923

＊1　同展図録、長崎歴史文化博物館編『特別企画展 シーボルトの水族館』（長崎：長崎歴史文化博物館、2007年）、32-97頁参照。なお本稿で「慶賀魚図」という術語を使用する場合、山口によりビュルガー発注とされた後期（F）の魚図群計259図を指すものとし、ブロムホフ・シーボルト発注の前期の魚図群（A, B, C, D, E）とは区別して扱う。Takao Yamaguchi, "Kawahara Keiga and Natural History of Japan I. Fish Volume of *Fauna Japonica*", *Calanus: Bulletin of the Aitsu Marine Biological Station, Kumamoto University, Japan*, vol.12, 1997a, pp.1-206, esp. pp.35-42, 86-89；山口隆男「川原慶賀と日本の自然史研究－１．シーボルト、ビュルゲルと「ファウナ・ヤポニカ魚類編」、『CALANUS：合津臨界実験所報』第12巻、1997年b、207-250頁、とくに222頁。

＊2　Yamaguchi (1997a), *ibid*. これらが慶賀作品であることを初めて指摘したのは Holthuis & Sakai であった。L.B.Holthuis and T.Sakai, *Ph.F. von Siebold and Fauna Japonica: A History of Early Japanese Zoology*, Tokyo: Academic Press of Japan, 1970（L.B.ホルトハウス・酒井恒『シーボルトと日本動物誌－日本動物史の黎明－』（東京：学術出版会、1970年）), pp.101-105, 300-303. 「慶賀魚図」259図すべての白黒図版は山口（1997a）、90-179頁で出版され、また78図のカラー図版は長崎歴史文化博物館（2007）、32-97頁で出版された。なお長崎歴史文化博物館制作「ビジュアル百科事典：川原慶賀の見た江戸時代の日本（Ⅰ）－オランダと日本の慶賀作品」（文化庁芸術拠点形成事業）http://www.nmhc.jp/keiga01/ 及び配布用DVD（2007年）は、ほぼすべての「慶賀魚図」をデジタルカラー画像で公開している。

＊3　「慶賀魚図」とビュルガー「報告」の番号が対応関係にあることは、早くは Boeseman によって指摘され、３者の対応関係についてもすでに山口が指摘している。M.Boeseman, *Revision of the Fishes Collected by Burger and von Siebold in Japan*, Leiden: E. J. Brill, 1947, pp.12-13; Yamaguchi（1997a）, pp.26-28; 山口（1997b）、240-241頁; Takao Yamaguchi & Yoshihiko Machida, "Fish Specimens Collected in Japan by Ph.F. von Siebold and H. Bürger and Now Held by The Nationaal Natuurhistorisch Museum in Leiden and Other Two Museums", *Calanus: Bulletin of the Aitsu Marine Biological Station, Kumamoto University, Japan*, Special number Ⅳ, 2003, pp.87-321, esp., p. 90. また甲殻類についても同様のことが指摘されている。山口隆男「シーボルト及びビュルゲルの日本の自然史研究（特に動物学、とりわけ甲殻類）に関する貢献」、同編『シーボルトと日本の博物学 甲殻類』（東京：日本甲殻類学会、1993年）、85頁。

＊4　慶賀と慶賀図に関する先行研究から代表的なものを挙げると、平山郁夫・小林忠編著『秘蔵日本美術大観９ライデン国立民族学博物館』（東京：講談社、1993年）；陰里鐵郎『川原慶賀と長崎派（日本の美術 no.329）』（東京：至文堂、1993年）；兼重護『シーボルトと町絵師慶賀：日本画家が出会った西欧』（長崎：長崎新聞社、2003年）；山梨絵美子「クンストカーメラ所蔵フィッセル・コレクションの日本絵画－川原慶賀作品を中心に」『美術研究』第378巻、2003年、47-69頁。慶賀の生涯についてはなお不明な点が多いが、渡辺庫輔氏がかつて転写した大光寺（長崎市鍛冶屋町）の過去帳には、彼の妻（俗名は不明）と娘ヌイ・ジウについて以下の記載が見られる。「天保第三壬申歳／…［朱：五月］八日／一　智仙　遍照寺　今下町　田口登与助娘ヌイ／…天保七丙申年…［朱：九月］五日／一　智観　發心寺　今下町　田口登与助娘ジウ／…天保十己亥稔…［朱：二月］十三日／一　妙圓　發心寺　今下町　田口登与助妻事」、『大光寺〔過去帳〕２』（長崎歴史文化博物館収蔵、請求番号：渡辺文庫13-236-2）、26-30頁。

＊5　近年、慶賀が輸入顔料のプルシアンブルーを使用していたことが科学的見地から指摘されている。朽津信明「日本におけるプルシアンブルーの初期使用例とその意義」、神戸市立博物館編『西洋の青－プルシアンブルーをめぐって－』（神戸：神戸市立博物館、2007年）、14-19頁および同図録本文100-102頁。

＊6　ただしかつては260図が現存していたらしい。山口（1997b）、237頁。

＊7　ペン書き番号の例については、長崎歴史文化博物館（2007）、60頁「ギンザメ」、87頁「トビエイ」、90頁「サワラ」を、鉛筆書き番号の例については、同39頁「ブリ」、41頁「ランチュウの一種」、92頁「アカナマダ」等の図版を参照のこと。なお余白には、整理番号以外にも『日本動物誌・魚類編』における図版番号や学名がペンあるいは鉛筆で書き込まれている。こちらの番号は、魚類編の編纂時に整理のために付されたか、あるいは石版工への指示の類であろうが、整理番号とはまったく異なるナンバリングであるため、混同することなく明確に区別することができる。またその他にも、シュレーゲルによるものと思しき分類学的な内容の書込み（鉛筆書き）が付されている場合があり、魚類編の成立過程を考える上で重要な情報である。

＊8　M.J.P.ファン・オイエン（平岡隆二訳）「オランダのラ

イデン国立自然史博物館に収蔵されるシーボルトの日本産魚類コレクション小史」（M.J.P. van Oijen, “A Short History of the Siebold Collection of Japanese Fishes in the National Museum of Natural History, Leiden, The Netherlands”）、前掲長崎歴史文化博物館（2007）、126-141頁、とくに132-133頁。

＊９　Yamaguchi (1997a), p.26. 山口が指摘するように、ビュルガーの筆跡は一見してそれと分かる特徴のあるもので、他との判別は比較的容易である。この「１」の字の筆跡については、M.J.P.van Oijen氏より示唆を頂いた。なお氏は現在「慶賀魚図」に関する書物を出版準備中である。

＊10　ビュルガーが慶賀に描かせた一連の甲殻類図も、縦35cm横50cmの画紙に原寸大で描かれており、一部の種には大きな余白が残されている。Holthuis & Sakai (1970), p.103, 302.

＊11　本稿第２節「照合表」および長崎歴史文化博物館（2007）の「出品目録」における各図の画紙寸法（149-153頁）を参照。

＊12　日本学会が所有していた資料の多くは、現在ドイツのルール大学東亜学部に移管されている由であるが、まだ調査の機会を得ていない。山口（1993）、130-131頁。

＊13　以下の引用では、リストA・Bとも、リスト内の頁数（1-9）で示す。

＊14　リストA、１頁。なおこの属名「***Zygaena***」、日本語名「***Simokfuka***」の下には下線が付されており、そのことを示すためにイタリックで表記した。以下本稿における引用ではこの原則に則る。

＊15　Holthuis & Sakai (1970), p.105, 303; Yamaguchi (1997a), p.27; Yamaguchi & Machida (2003), p.100.

＊16　このことは、本年に発送された魚種総数の決定を非常に困難なものとしている。これらの書き込みをカウントするか否かによって、総数が変わってくるからである。試みに、疑わしい書き込みをすべて別種として数えた上げたところ、その総数は306種で、山口が指摘する1830年の送付種数304と若干食い違う結果となった。山口（1993）、79頁；Yamaguchi (1997a), p.27参照。ただし今回使用した複製本は印刷が不鮮明で、一部判読困難なため、この数字も暫定的なものでしかない。あるいは本リストは1830年の発送以降もビュルガーの手元に留め置かれたもので、これらの書き込みは、次年度以降のリストを作成するために付された後代の加筆かもしれない。

＊17　‘Dezima den 20te December 1830／ Dr. H. Bürger, Ambtenaar belast met het natuurkundig onderzoek te Japan’（９頁）。邦訳は筆者による（以下とくに断らない限り同じ）。

＊18　‘Systematische lijst van Japansche visschen, zoo verre die den ondergeteeken in dit loopend jaar bekend zijn geworden, en met de schepen van dit jaar naar Batavia worden afgezenden. N.B. De nummers in deze lijst beteekenen, dat de visschen daardoor aangeduid door den ondergeteekende zijn beschreven, en dat daardoor van teekeningen worden overgelegt, de * dat de visschen in Arak worden overgezonden.’（１頁）。

＊19　「No.1/***Gastrobranchus***, Bl: ***Toko***, Jap:/トコ」（１頁）より「100/Holacanthus, Lac: Hatatate no rui［訂正あり］」（９頁）まで計100種。なおリストAは実際には101番まで付されている。その種名は「Stromateus, Manakatsuwo」（９頁）すなわちマナガツオであるが、下で取り上げる1831・1832年版リストの101番は「***Spinax,*** Cuv: ***Kennozoo***」（それぞれ1頁）で、明らかに別種と判断され、さらにマナガツオ「***Stromateus,*** Cuv: ***Manakatsuwo***, Jap」（それぞれ16および12頁）に付された番号は199番である。したがってリストAのNo.101には混乱があるようであり、ここでは除外した。また100番の種名についても、リストA･Bは「Holacanthus, Lac: Hatatate no rui」（９頁）で、1831・1832年版リストにおける100番の「***Pomacanthus,*** Lac: ***Hatatate***［no rui］」（それぞれ16および12頁）と属名が異なるが、こちらは日本語名が同じであるため除外しなかった。なお山口は1830年のリストの最終番号を99としている。Yamaguchi (1997a), p.28; 山口（1997b）、241頁参照。

＊20　‘Gleich nach Ihrer Abreise von Japan, habe ich mich/ wie ich bereits im vorigen Jahre Ihnen geschrieben habe, mit Lust und Liebe an die Fische gemacht, mit dem gewünschtem Er-/ folge dass jetzt bereits by de 400 Species, nach dem Leben/ durch Toyoske gezeichnet sind, wovon bereits 200 mit ausfuhr-/ lichen Beschreibungen von mir versonden sind, worunter/ Sie wahrscheinlich viel Neues finden werden. Ich habe mich punktlich an Ihre Instruction gehalten, und Alles/ bekannt oder unbekannt zeichnen lassen, um auf diesem/ Wege ein Ganzes zu liefern von allem was die japansche/ Seen und Flusse an Fische aufliefert. Unter der letzten/ Besendung finden Sie viele Flussfische, welche/ ich bereits bis auf 100 Species gebracht habe, wovon jedoch noch viele ungezeichnet sind. Im ganzen genommen sind mir etwa 700-800 Species Fische alhier bekannt geworden/ wovon bereits 500-600 weitläufige

Beschreibungen um mit den Zeichnungen versonden zu werden fertig liegen./ Ich denke jählich hiervon eine Besendung von 100 Exemplare zu liefern. Sie werden darum im folgenden Jahre die dritte Lieferung bekommen, es sol［*sic!*］mir sehr angenehm/ seyn hierüber etwas von Ihnen zu hören'、山口隆男「シーボルト、ビュルガー、川原慶賀と日本の魚類学」、『鳴滝紀要』第17号、2007年、42および46頁参照。本稿では同論文収録の宮坂正英氏による邦訳を利用した。なお同論文はこの手紙の日付を「12月31日」と明記する場合があるが、M.J.P. van Oijen氏のご教示によると、写真図版の「1ten」の直前の筆跡は「３」ではなく「den」の省略記号のため、「12月１日」とすべきとのことである。ビュルガーは1830年版リストB、1831年版リスト、1834年版リストの署名でも同様の記号を用いているため、本稿では「12月１日」付けの書簡とした。

＊21　なお筆者の調査では「慶賀魚図」の「スマ」「キハダ」「カンパチ」などの画紙に「Honig」「C & I」というウォーターマークの存在を確認しているが、M.J.P. van Oijen氏のご教示によると、「1828」というウォーターマークを有する画紙も存在しているとのことである。この数字は画紙の製作年と思われるが、それらが日本まで届けられる時間を考慮に入れても、本稿の推定とは矛盾しない。

＊22　'In het verslag van Bürger meldt hij ook eene partij plaaten van visschen, aan het gouvernment hier gezonden to hebben, echter hebben wij daarvan nog niets te zien bekomen' , Yamaguchi (1997a), p.25.

＊23　'Systematische lijst van Japansche visschen, welke door den ondergeteekende met de schepen van dit jaar naar Batavia worden verzonden. N.B. De nummers in deze lijst beteekenen, dat de visschen aangeduid door den ondergeteekende zijn beschreven, en dat daarvan het tweede honderdgetal teekeningen worden overgelegt.'（１頁）; 'Dezima den 1 December 1831／ Dr. H. Burger, Ambtenaar belast met het natuurkundig onderzoek in Japan.'（16頁）。

＊24　これらの書き込みは複製本では印刷が不鮮明で、その解読はきわめて困難であるが、ビュルガーの筆跡と思しい。毎頁15行2列に整然と列挙された種名をそのまま数え上げると456で、この数は山口が掲げた1831年の発送種数と一致するが（山口（1993）、79頁；Yamaguchi (1997a), p.27参照）、これら行間余白の書き込みも数え上げると、総種数はそれ以上となる。ただし1830年版リストの場合と同様、これらの書き込みは後代の加筆かもしれない。

＊25　ビュルガーが甲殻類の「分類リスト」に付したカタカナ和名と漢字名は、Holthuis & Sakai により慶賀の筆跡と推定されており、山口は魚類のものについても慶賀の筆跡と断定している。Holthuis & Sakai (1970), pp.104-105, 302-303; 山口（1997b）、242頁。

＊26　「No.1/*Gastrobranchus*, Dum: *Toko*, Jap:/ヤツメウナギノルイ/鱔之類」（１頁）より「No.200/*Polynemus*, Linn: *Hiranoaginasi*, Jap:/ヒラアギナシ/平無鬥」（16頁）まで。ただしNo.9とNo.26を欠く計198種である。

＊27　不鮮明な複製本に拠る限り、その筆跡は行間余白の種名書き込みと同じく、ビュルガーの筆跡に見える。この数字なしの「No.」が各頁に何点見られるかを、判別できた限りで掲げると、１頁４点、２頁３点、３頁６点、４頁４点、５頁６点、６頁３点、７頁４点、８頁３点、９頁なし、10頁２点、11頁１点、12頁６点、13頁３点、14頁３点、15頁４点、16頁３点の計55点ある。ただしこれらの書き込みも、後代の加筆である可能性がある。

＊28　山口（2007）、42-43頁参照。

＊29　シーボルト関連文書群所収のものは、上述の1830年版リスト2種を含む冊子、***Autographs, Fauna japonica 22: Bürger, K.H., Systematische lyst van Japansche visschen***（長崎歴史文化博物館収蔵、請求番号2-450-155）、1-12頁。ライデン国立自然史博物館所蔵のものも同じく全12頁で、正式な請求番号は与えられていない。後者については、本稿では山口隆男氏よりご提供頂いたコピーを利用した。またYamaguchi (1997a), p.23には後者の第10頁の図版が掲載されている。

＊30　'Systematische lijst van Japansche visschen, welke door den ondergeteekende met de schepen van dit jaar, naar Batavia worden verzonden. N.B. De nummers in deze lijst beteekenen, dat de visschen aangeduid door den ondergeteekende zijn beschreven, en dat daarvan de derde levering teekeningen worden overgelegt'（１頁）; 'Desima den 1e Decemb: 1832／ Dr. H. Bürger, Ambtenaar belast met het natuurkundig onderzoek alhier'（12頁）。この表題の翻訳についてはM.J.P.van Oijen氏、中澤聡氏から貴重なご教示を得た。記して感謝申し上げる。

＊31　「No.1/*Gastrobranchus*, Dum: *Toko*, Jap:/鱔之類/トコ」（１頁）より「No.200/*Polynemus*, Linn: *Hiranoaginasi*, Jap: /平無鬥/ヒラノアギナシ」（12頁）まで。ただしNo, 4, 5, 9, 14, 21, 26, 36, 40, 43, 48, 55, 58, 84, 85, 88, 91, 96, 103, 106, 108-112, 115, 121-123, 128, 130, 132, 138, 143, 144, 156, 166, 177, 184, 185, 187, 188, 192, 193

を欠く、計157種である。

＊32　各頁ごとの点数のみ掲げると、１頁４点、２頁５点、３頁７点、４頁６点、５頁３点、６頁３点、７頁２点、８頁２点、９頁４点、10頁６点、11頁４点、12頁３点の計49点。

＊33　たとえば「No./***Pastinaca***, Cuv: ***Sirajei***, Jap:/シラエイ/白鱭魚」「No./***Tetradon***, Linn: ***Tamabuku***, Jap:/タマブク/玉河豕」（1831・1832年版リスト、1-2頁）など、少なくとも20種ほどある。ただし1831年版リストの書き込みには、印刷の不鮮明さや後代の加筆の可能性などの問題があるため、現資料による限り正確な比較は難しい。

＊34　なお1830年版リストに数字なし「No.」の書き込みは見られず、No.1～100以外の魚図の制作を読み取ることもできないが、整理番号無しの魚図がこの時点で制作されていなかったことを示す史料も知られないため、ここではその上限を1829年12月30日まで遡ることとした。

＊35　請求番号なし。全8頁。本稿では山口隆男氏よりご提供頂いたコピーを利用した。なおビュルガーは1832年に（おそらく発送標本・「慶賀魚図」と共に）一旦長崎を離れてジャワに赴いたが、この1834年までに再び長崎に戻ってきていた。ビュルガーの生涯については、M.J.van Steenis-Kruseman, “Contributions to the History of Botany and Exploration in Malaysia. 8: Heinrich Bürger (?1806-1858), Explorer in Japan and Sumatra”, ***Blumea***, vol.11, no.2, 1962, pp.495-506 に詳しい。また Holthuis & Sakai (1970), p.38, pp.237-238 も参照のこと。

＊36　‘Sijstematische lijst van Japansche visschen, welke door den ondergeteekenden dit jaar naar Batavia worden verzonden. N.B. De + in deze lijst beteekenen, dat de visschen aangeduid door den ondergeteekenden zijn beschreven, en daarvan reeds vroeger de teekeningen zijn overgezonden.’（１頁）；‘Dezima den 25 October 1834／ Dr. H. Bürger, Ambtenaar belast met het natuurkundig onderzoek in Japan.’（８頁）。

＊37　原史料にはとくに表題は付されていない。ライデン国立自然史博物館蔵。請求番号なし。その複製図版については、山口（1993）、85頁；Yamaguchi (1997a), p.21; Yamaguchi & Machida (2003), pp.105-108参照。本稿では山口隆男氏よりご提供いただいたコピーを利用した。

＊38　ビュルガー「報告」の記述形式については、Boeseman (1947), pp.13-14; Yamaguchi & Machida (2003), pp.90-92に詳しい。

＊39　長崎歴史文化博物館（2007）、32-97頁。同図録における引用は、当時M.J.P.van Oijen氏に提供していただいた未発表の英訳に依拠した。またYamaguchi & Machida (2003), pp.132-207に収録されている邦訳も、同氏の英訳に依拠したものである。なお同図録「127. ギンブナ」の解説で引用したビュルガー報告の記述は、本稿の執筆中に「59. ランチュウの一種」に関する記述であることが分かった。記して訂正する（第２節「照合表」の56番・18番、および本稿末尾付録の正誤表を参照）。

＊40　‘Aanmerkingen: Dit hier zoogenaamde kleine witvischje, wordt alleen in de voorjaarsmaanden als Maart en April in verbazende menigte in de uit de bergen komende riviertjes en spruitjes in de omgevingen van Nagasaki gevangen; hij maakt eene geliefkoosde spijze der Japanners uit, welke denzelven meest zelfs gaan vangen, en in een opgeslagen tent aan den oever der rivieren koken en eten, waaraan gewoonlijk de geheele familie als een uitspantogtje deel neemt. Ook kan men denzelven niet lang bewaren, terwijl hij zich spoedig in water in eene slijmige zelfstandigheid oplost’（272頁）。邦訳に際してはM.J.P.van Oijen氏ご提供の未発表英訳も参照した。

＊41　長崎史談会編『長崎名勝図絵』（長崎：長崎史談会、1931年）、315頁。図表は同書316-317頁より転載。この図の存在は井出勝摩氏よりご教示頂いた。記して御礼申上げる。

＊42　香月薫平『長崎地名考』物産部（長崎：虎與号商店、1893年）、18丁オ-ウ。

＊43　IPA「教育用画像素材集サイト」http://www2.edu.ipa.go.jp/gz/に動画がある。とくに http://www2.edu.ipa.go.jp/gz/p1sui1/p1gyo1/p1gs02/p1gsb4.mpg 参照。

＊44　哺乳類など他の脊椎動物では点数も明示されている。Yamaguchi & Machida (2003), p.114.

＊45　‘Aanmerkingen: Deze Bonit soort wordt voornamelijk veel in de Zomermaanden, doch altijd buiten in opene zee gevangen; zoolang het weer het maar eenigzins gedoogd, zijn de visschers vaartuigen buiten, en met verwonderlijke snelheid, brengen zij tegen den avond hunne vangst naar binnen, en meestal nog levendig op de vischmarkt. Het is eene der meest gezochtesten[sic] spijzen der Japanners, die dezen visch zoo versch als maar immer mogelijk raauw met Zoya en Sake eten; zij houden denzelven vooral in den Zomer, voor zeer gezond en verkoelend, en meer dan honderdt vaartuigen ziet men dagelijks naar

Nagasaki met eene rijke vangst terugkeren. Ook gedroogd als Katsuwobos maakt dezelve eenen grooten artikel van binnenlandschen handel uit, ook wordt hij als zoodanig door de Chinezen veel vervoerd'（169頁）。邦訳に際してはM.J.P.van Oijen氏ご提供の未発表英訳も参照した。なおシーボルトは、当時のカツオ漁と鰹節製造の風景を慶賀に描かせている。川原慶賀筆『魚の加工（鰹節作り）』（ライデン国立民族学博物館蔵、請求番号1-4245）参照。また香月（1893）、19丁ウには「鰹ハ野母村の漁民数十里の遠海に出て漁す。同村に納屋を建て、猥に他の業をするを得す。多漁の時、半は鰹節に製し、半を長崎に送る。生魚の味、他に勝れて美也」と見える。

＊46　ただしカツオの標本はライデン国立自然史博物館に現存していない。Yamaguchi & Machida (2003), pp.115, 123-124.

＊47　Holthuis & Sakai (1970), p.252.

＊48　シーボルトはビュルガーに参照すべき図書に関する指示も出していた。ファン・オイエン前掲論文、長崎歴史文化博物館（2007）、132頁。

＊49　Holthuis & Sakai (1970), pp.104-105, 303.

＊50　Yamaguchi (1997a), p.184-185; ファン・オイエン前掲論文、長崎歴史文化博物館（2007）、132頁。

＊51　それぞれ原田章之進編『長崎県方言辞典』（東京：風間書房、1993年）の「さずぇかみ」「のおそ」の項を参照。

＊52　長崎県立長崎西高等学校編『つなげてみよう ばってん長崎方言の輪（魚編）』（長崎：長崎県立長崎西高等学校、1997年）、31および42頁。「コウムキ（カワハギ）」については、香月（1893）、18丁オ-19丁ウも参照のこと。